

## 英語の韻律特性とリスニングの指導

— コミュニケーションメディアとしての音声英語 —

中 村 嘉 宏\*

(1992年10月15日 受理)

English Prosody in EFL Teaching

— English as a Medium of Communication —

Yoshihiro NAKAMURA

外国語(英語)学習初期の段階における音声言語の理解と発表能力の養成が強調されるようになって久しい。この目的に向けて様ざまな試みがなされているが、多くの場合、音声を媒体とする伝達内容の理解力が十分に養成されないまま、発表能力の獲得に力点がおかれ、あたかも、音声英語の学習イコール発表能力の学習とする傾向がみうけられる。言語による意思伝達では伝達内容の理解が前提となっており、理解のない対話の継続は困難である。理解力を伴わない発表力はいわゆる‘classroom English’や‘local English’といわれるように意思伝達能力のごく一部を形成するものでしかなく、音声言語学習におけるこのような跛行的現象は長期的な学習継続への意欲を妨げる要因ともなってくる。以下、教室における聴き取り能力(listening comprehension)の指導・学習という観点から音声英語の諸特性を考え、教室での指導技術の一環として目標言語の韻律特性に関する知識をどのように活かすことができるのかを模索してみたい。

### § I コミュニケーションメディアとしての音声英語 — 発話行為(speech act)

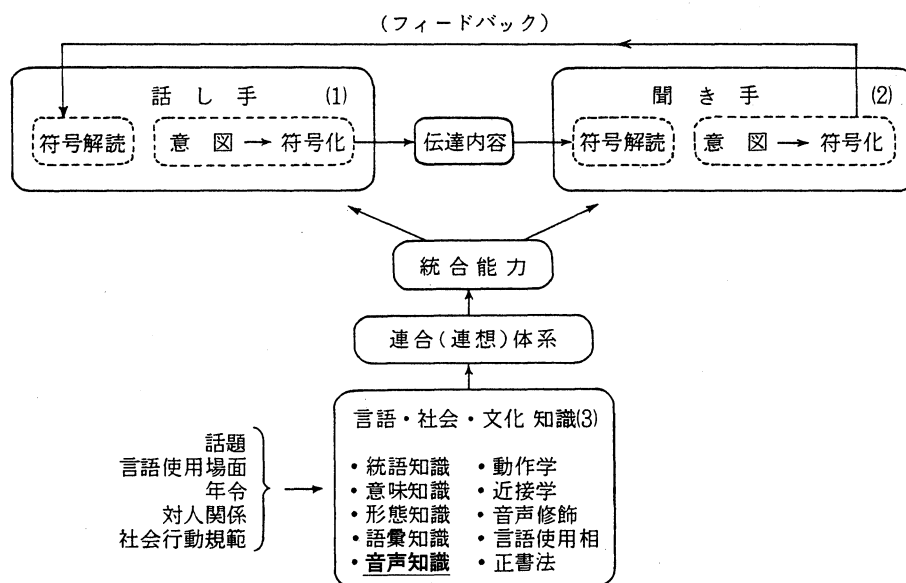
発話行為には心理的実在として社会・文化・言語的に多様な要因が構造的に関与している(図-I参照)。外国語(英語)による発話行為の実現(顕在化)には、このような要因としての知識や技能が内化され、さらに、これらを統合・運用する能力の存在が前提となっており、単に、言語(語彙・構文)に関する項目羅列的な知識の蓄積や暗記に基づく機械的な文型・対話練習だけが発話行為に必要な基礎的能力の習得を可能にする訳ではない。音声英語をコミュニケーションメディアとして

---

\*鹿児島大学教育学部外国語科

教授・学習の対象とする場合、教授者と学習者が発話行為 (speech act) のプロセスおよびそれに伴う様々な要因について理解を深めてゆくことは、たとえば、学習への動機づけや具体的な教授・学習目標の設定という観点からも大きな役割を果たすものといえる。音声英語の韻律特性 (文強勢、リズム、音調、接続などを含む音声特徴) とその重要性について考えてみる前に、本節では、まず、発話行為 (図-I) のプロセスに焦点をあて、そこから音声英語の教授・学習にどのような示唆が得られるのかを論じてみたい。

図-I  
— 発 話 行 為 —



通常、発話行為には、「話し手」(1)と「聞き手」(2)が存在し、対話の際、「話し手」はある種の情報を伝える意図 (intention) をもち、概念 (idea) として脳裏にある伝達内容 (message) を伝達媒体である言語に記号化 (encode) する。「聞き手」は音声を媒体とする記号化された伝達内容を解読 (decode) し、「話し手」の意図を理解することになる。この過程で、「話し手」は、「聞き手」から得られるフィードバック (feedback) によって、いわば、「聞き手」の理解度について様々な判断の材料を得ることになる。このフィードバックは言語によってなされることもあり、また、身振りや顔の表情などによってなされることもある。まとまった内容の発話が終わるのをまって「聞き手」は「話し手」となり、両者は相互のフィードバックによって伝達内容の正確な理解を確認し、一方で、情報理解のギャップ (乖離) を知覚し誤解を避けようと努力する。「話し手」と「聞き手」の役割は交互に代わり両者の役割が固定したり同時に同じ役割を持つことはない。発話行為を継続する際、「話し手」と「聞き手」が、随時、その役割を交代できることは、両者が心理的に文化・社会・言語知識(3)をある程度または完全に共有していることを示している。母国語習得の場合、韻律特性を含む音声知識が共有知識(3)の構成要素の中でも最も早く確立され、また、情報伝達の媒体

として最も永く記憶保持されることは、外国語教育において音声言語による意思伝達能力の養成を目的・目標とする場合、注目されてよい事実といえよう。

実際の発話行為において、文化・社会・言語知識(3)に影響を与える外的要因として、さらに、図一Iにあるように、「話し手」と「聞き手」の年齢、性別、両者の対人関係、社会的地位、また、「話し手」と「聞き手」が属する文化・社会の伝統的な言語行動規範などが目に見えない要因として作用している。発話行為に関する社会行動規範については、歴史的・文化的背景が色濃く反映し、日本語と英語を母国語とする文化圏では互いに異なった面が存在している。たとえば、集団よりも個により比重をおく英語文化圏では、言語を個人の自己表現、あるいは、自己主張の重要なメディアとして認識する傾向が強く、個性表出とともに言語的論理性が重んじられる。音声英語による意思伝達能力の養成にあたっては、「話し手」と「聞き手」の相互理解を実現する上でこのような言語行動の違いを認識することは、異文化理解の観点から、言語によるコミュニケーションが単に言語だけの問題ではないことを体得する上で学習者にとって大きな意味をもつものといえよう。

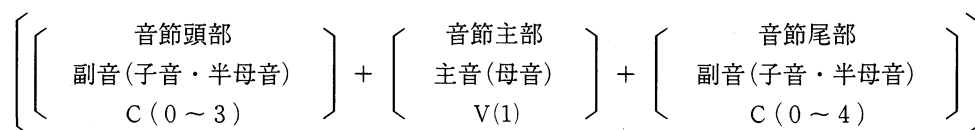
発話行為はこのように複雑な内的・外的諸要因について「話し手」と「聞き手」が共通の知識と理解を有することで成り立っているといえるものであるが、発話行為の実現には、図一Iに示すように、個々の要因が内的構造を成し、同時に、これらが相互に構造化した連合(連想)体系を形成する必要があり—この意味で、言語は、いわば、規則に支配された有機的な連合(連想)構造の体系—最終的には、多様な言語使用場面に応じて、総体としての連合体系を機能的に統括する統合能力(言語運用能力)の養成が必要になってくる。

本論では、上記内容を念頭に、音声英語の理解能力を促進する観点から、以下、英語の韻律特性について、とくに、音節構造、リズム特性、強勢の型、音調、および、発話の中でこれらの影響を受けて生ずる分節音の変化の諸相、などについて論じてみることにしたい。

## § II 日・英語の音節構造比較

以下の音節構造図(図一II参照)は日・英語の基本的な音節構造の差異とそこから生ずる外国語(英語)学習上の様ざまな困難点を示唆している。日・英語の音節構造の違いから日本人学習者にとって音声英語の習得上どのような学習困難が生ずるのかを、以下、両言語の音節構造の分析を基に具体的にみていくことにしたい。

図一II  
— 音 節 構 造 —



言語の音節は、図一IIにみるように、音節主部と音節頭部・尾部(前部・後部)から成り立っている。音節主部を構成するのはソノリティ度(scale of sonority)の原則から常に母音であり(音節主

音となる子音を含む), また, 音節頭部および音節尾部を構成するのは子音と半母音であり, 母音がこれらを構成することはない。音節主部をもたない音節はないが, 音節によっては音節頭部または尾部, あるいは, その両方をもたないものもある。音節尾部をもたない音節は開音節 (open syllable), 音節尾部をもつ音節は閉音節 (closed syllable) と呼ばれている (15: 120-125)。

日本語の場合, 音節主音となる鼻音の /n, ŋ/ を除き — 2重子音 (例: gakko), 子音 (半母音) + 子音 (半母音) (例: bya, cha, gwa, hya, rya など), また, 長母音は1文節と考える — すべて開音節化し, 通常, 1子音 (C) + 1母音 (V) または母音 (V) のみの構成となるが — このため, 日本語は開音節言語と称されることがある —, 英語では音節主音となる鼻音の /m, n/ および側音の /l/ を含め, 開音節と閉音節の両方が存在している (但し, 閉音節が多い)。英語の場合には, また, 音節頭部に3子音, 音節尾部に4子音程度の連続音をもつ語彙があり, このような子音連結 (consonant cluster) は英語に特徴的なものであり, (1子音+) 1母音の開音節構造をもつ日本語にはみられないものである。子音の配列特性では, この他, 英語の場合, 通常, 同じ調音法の子音による子音連結は生じない, 子音 /ŋ/, /ʒ/ が語頭にくることはない, また /t, d/ + /r/ の子音連結は語頭では生じるが語尾では生じない, /tʃ, dʒ/ + /r, l/ の子音連結は語頭では生じない, などがあり, さらに, 語頭の3子音連結では, 語頭音に /s/, 続いて /p, t, k/ のいずれか, さらに, /l, r, j, w/ のいずれかの子音連続になる (但し, /spw, stl, stw/ は生じず, /skl/ は稀である), などの例をあげることができる。音節におけるこのような日・英語の音素配列の違いから, しばしば, 日本語は母音言語, 英語は子音言語と称されることもある (8: 151-254)。

さらに, 英語に多い例として, 形態素 (morpheme) 間の音声連続を維持するため, 語尾子音と次の語の語頭母音が連結し, 子音が母音の音節へ移動する動的転置 (dynamic displacement) と呼ばれる, 音節の構造上, 一部の例外を除き, 日本語にはみられない音声現象もある (第VIII節第1項参照)。また, 言語リズムとの関連でいえば, 日本語は1つの音節がほぼ同じ時間をかけて発音される音節拍律 (isosyllabism) の特徴をもち, 一方, 英語は, 音節の数とは関係なく, 文強勢間がほぼ同じ時間をかけて発音される強勢拍律 (isochronism) の特徴をもっている (14: 28-43)。日・英語のこのような音節構造やリズム構造の相違およびこれらに起因する音声変化の諸相の複雑さが音声英語を学ぶ日本人学習者にとって大きな学習困難点となってくる。

### § III 音声英語の学習と学習困難点

日本人学習者にとって音声英語習得上の障害となるのは, たとえば, 子音 /l/ - /r/, /f/ - /h/, /v/ - /b/, また, /dz/ - /dʒ/, /s/ - /θ/, /z/ - /ð/ の識別, 長母音 — 同一音素の音量 (sound quantity) が音韻的差異を生ずることではなく, 短母音が長音化したものではない — や二重母音 — 短母音が2個連続したものではなく, 日本語とは異なり, 2音節構成にはならない — を含む母音群の多様さと複雑さ (例 /i:, i, ei, e, æ, u:, u, ou, ɔ:, ɔ, a:, ʌ, ə, ə:, ai, au, ɔi, iə, uə, eə/ 等), などに限らない。個々の音素の識別レベルの他, 音節における分節音配列や言語リズムの違い,

および、特定の音声環境においてこれらとの関連で生ずる並置・非並置的な分節音の変化の諸相など、問題点が多い。たとえば、先にも触れたように、音節拍律言語の特徴をもつ日本語では、音節数が多くなればなるほど発音に要する時間はそれだけ長くなり、逆に、音節数が少なくなればそれだけ発音に要する時間は短くなる傾向があるが、強勢拍律言語の特徴をもつ英語の場合、このような言語リズムはあてはまらない。また、印刷された日本文と英文の比較から分かるように、日本語の場合、英語の正書法とは異なり、単語の前後に余白をとることはない。日本語では、文中の余白は息継ぎを示すものであり、このような日本語正書法の規則を学習者が英語学習にもちこむことで、発音(音読)の際、形態素(morpheme)の区切りを音節の区切りと混同し、個々の単語の前後に短いポーズを入れ、結果的に、強勢拍を特徴とする英語の言語リズムの維持と通常用いられる弱形発音を困難にする一因を成している。

英語の機能語(冠詞、助動詞、人称代名詞、接続詞など)にみられる発音上の強形と弱形の区別は日本語にはないものであり<sup>1)</sup>、言語リズムや流暢さを維持する上で、弱形発音の重要さにもかかわらず、一般に、発音指導・学習の面で弱形への配慮が十分とは思えない(16: 219-226)。日本人学習者の場合、英語の慣例とは逆に、発話において強形を通常発音形態とする傾向があり、この理由として、日本語の正書法による干渉とは別に、日本語の発音自体に強形と弱形の区別がなく、実際的にも概念的にも理解が難しく、言語リズムの点からも学習者には強形の方が聞き取りやすく、また、発音もしやすいという点をあげることができる。この他、日本語の開音節化の特徴に、学習者が英語を発音する際、子音の後ろに母音を無意識のうちにいれて発音したり、英語の音節頭部・尾部における子音連結の聞き取りや発音に困難を感じずる原因を求めることができる。これらの点は、英語の母音の多様さや音声連続における分節音の単純化現象(simplification)と相俟って、日本人学習者が英語を聞いて理解しようとする場合、英語の発話は非常に速く、また、音声も音を飲み込むように曖昧と感ずる原因ともなっており、このようなことは、英語学習にあたって、学習者が母国語(日本語)の音声体系に依存する限り生ずるものである。音声英語の指導と学習に際して、このような観点からも、英語の音節構造や韻律特性を理解する必要性が浮き彫りになってこよう。

#### § IV 英語のリズム単位

日・英語の言語リズムの違いは、基本的には音節依存かまたは強勢依存かで示され、前者は音節拍リズム(syllable-timed rhythm)、後者は強勢拍リズム(stress-timed rhythm)として区別されている。母国語の音節拍律(isosyllabism)に慣れた日本人学習者にとって言語が異なれば音節構造や言語リズムも異なるとの認識は薄く、英語の言語リズムへの聴覚的な適応には強勢拍律(isochronism)の特色を理解した上で、英語母国語話者による自然な発音・発話をモデルとした体系的な聴覚訓練が必要である。以下、まず、英語の母国語話者が心理的に共有し、発話における、いわば、歩調の基本として機能する英語のリズム単位について考えてみることにしたい。

## ①英語のリズム単位——強勢群(stress group)と無音の強勢(silent stress)

英語のリズムは強勢拍律(isochronism)という点で諸家の見方は、ほぼ、一致しているものの(9: 232-244, 1: 86-90, 2: 72-100), 英語のリズム単位については、必ずしも意見の一致はみられておらず、異なった観点から多様な提案がなされている。本項では、英語のリズム単位(rhythm unit)について代表的な2つの視点—強勢群と無音の強勢—を以下に紹介し、各々の内容を概観してみることにしたい。

## ①強勢群(stress group)

強勢音節の前にある弱音節は特に速く弱く発音される。強勢音節の後の弱音節も速く弱く発音されるが、強勢音節の前の弱音節ほどではない。強勢群間の発音時間はほぼ同じになる。1リズム単位は、通常、強勢音節とその前後の無強勢音節から成るが、無強勢音節は無い場合もある(単音節の語が強勢群と同時に、1リズム単位を構成することがある。例1参照)。リズム単位の境界(/)は文法構造や意味内容によって変化するが、語の途中にくることはない(13: 95-100)。

(例1)

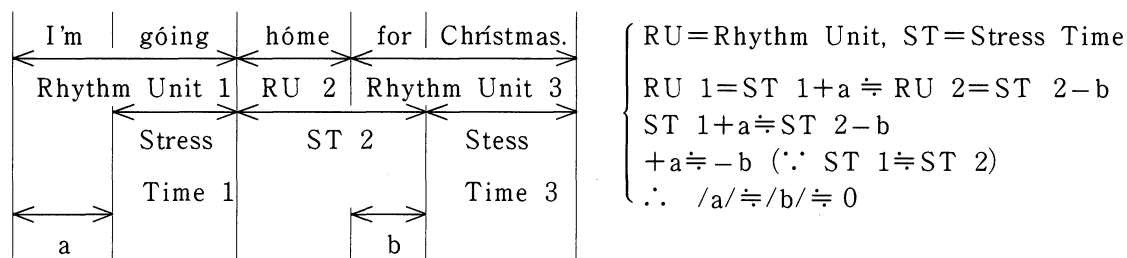
/I'm góing/hóme/todáy./

下線部は強勢群に含まれない。

/I'm góing/hóme/for Chrístmas./

強勢音節のある語, going, home, Christmas がそれぞれ強勢群を構成する。強勢音節の前のI'm と for は特に速く発音される。

(例2)



(例2)は強勢群(stress group)に基づくリズム単位と英語リズムの等時間隔性(isochronism)について両者の関係を図式化したものであるが、上記例は強勢音節の前の無強勢音節(例文ではI'm と for)が時間的に零に近い速さで発音されることを示している。このことはリズム単位に強勢群の概念を採り入れた①の視点にやや無理があり、強勢音節の前の無強勢音節の取扱いに多少の問題が残ることを示唆している。

## ②無音の強勢(silent stress)

リズム単位は強勢音節の始まりから次の強勢音節の前まで。発話の初めの無強勢音節は最初

のリズム単位の中に含めず、無強勢音節の前に無音の強勢(∧)を想定し、1リズム単位とする。文中における休止も無音の強勢(∧)とみなし、無強勢音節を含め1リズム単位と考える(例1参照)(19: 358-374)。

(例1)

/∧ I should/think it would be/bétter to/wáit till to/mórrrow./

/∧ We'll/stárt im/médiately/∧ if you are/réady./

リズム単位については、先に触れた④の視点が内包する問題点を補足し、発話の初めの無強勢音節の前と休止部に無音の強勢(∧)を想定した⑤の視点が、全体的に無理がなく、英語のリズム特性とも合致しているように思われる。音声英語の聞き取りでは、リズム単位の理解を基に、文強勢が置かれない弱音部の発音法に学習者の注意を喚起し、英語のリズム形態に徐々に慣れさせてゆく必要がある。

## § V 強勢(stress)

第Ⅱ～Ⅲ節では日・英語の音節構造の分析をもとに、両言語の相違点を概観し、英語学習上の困難点を指摘したが、学習困難を引き起こす両言語の基本的な他の相違点に日本語の抑揚(tone)と英語の強勢(stress)がある。日本語では抑揚が音韻的性格をもち、意味の違いを生ずる上で大きな役割を果たしているが、一方、英語では、抑揚とは質的に異なる強勢が音韻的性格をもち、意味の違いやリズムの型を生ずる上で大きな役割を果たしている(3: 192-194)。このような言語的背景から、日常、母国語使用において、強勢の概念を意識することのない日本人学習者の場合、音声英語の学習に際しても、強勢のもつ意義や重要性を見落としがちである。本節では、以下、句(内心的・外心的語群)および文の2つのレベルから、英語の一般的な強勢の型(規則性)について考えてみることにしたい。

### ①句強勢(phrase stress)

句強勢には、複合語(compound word)に適用される内心的句強勢と複数語彙の統語構造に適用される外心的句強勢がある(18: 183-201)。以下、内心的句強勢、外心的句強勢の順に、それぞれの基本型をみてゆくことにしたい(但し、文強勢の基本型と一致しないこともある)。

#### ④内心的句強勢(endocentric phrase stress)

④名詞化した複合語(例1参照)は前の語に強勢が置かれることが多い(例外 *hometown*, *homestretch* など)。但し、形容詞的・副詞的用法をもつ複合語は、多くの場合、後に強勢が置かれ(ハイフンで結ばれた場合には、通常、両方または後の語に強勢が置かれる。例2参照)、単に、修飾語+被修飾語の場合、一般には、後の語に強勢が置かれることが多い。

例1: 名詞化した複合語(通常, 強勢は前の語に置かれる)

head office, dancing girl, woman doctor, gentleman, White House, greenhouse,  
English lesson, gas stove, dining room, ice cream, chairperson, Japan proper,

(注) 強勢の位置によって語の意味が変化する。

hot seat(困った立場) - hot seat(熱い席), dancing girl(踊り子) - dancing girl(踊っている少女),  
English teacher(英語教師) - English teacher(英国人教師),

例2: 副詞・形容詞的用法をもつ複合語(通常, 強勢は後の語に置かれるが例外もある)

downtown, firsthand, head-on, old-fashioned, first-class, good-looking, one day,  
secondhand books, get news secondhand,

㊦形容詞・名詞+名詞(修飾語+被修飾語)の場合, 通常, 後の被修飾語に強勢が置かれるが,  
後の語が代名詞の場合, 強勢は前の語に置かれる(18: 191-193)。

old men, toy cars, big heads, this one, brown one, no one,

㊧形容詞+形容詞+名詞の場合, 通常, 最初の形容詞と名詞に強勢が置かれる。

good old days, a rich young American,

㊨外心的句強勢(exocentric phrase stress)

㊰動詞+名詞・形容詞, 動詞+(代)名詞+名詞・形容詞の場合, 通常, 名詞・形容詞に強勢が置かれる。一般に, 補語をとる自動詞(look, get, seem, sound など)には強勢は置かれず,  
また, 単音節の動詞(have, be, say, see, go, know など)にも強勢は置かれぬことが多い。

make haste, look cute, do great, we were worried, think big, make her happy,  
make him king, show me the way,

(注) Say this(動詞+代名詞。動詞の say に強勢が置かれる)

㊱get・have+過去分詞, be+過去分詞の場合, 通常, 過去分詞に強勢が置かれる。

get bitten, get lost, get caught, have come, is found,

㊲動詞+代名詞+前置詞+代名詞の場合, 通常, 動詞に強勢が置かれる。

sent it to her, make it for me, put him on it,

㊳使役動詞(causative verb)+目的語(名詞)+(to)不定詞の場合。

Ask him to let us start with the project. (let と start に強勢が置かれる)

Allow him to keep on doing it. (Allow と keep に強勢が置かれる)

I will have my camera fixed. (have に強勢が置かれる。使役用法)

(注) She had her car stolen. (stolen に強勢が置かれる。受け身用法)

We have some birds visit us early morning. (visit に強勢が置かれる。経験用法)

He has his work done. (done に強勢が置かれる。完了用法)

㊴知覚動詞+目的語+不定詞・現在分詞の場合。

We could see the water creeping up. (see, water, creeping に強勢が置かれる)



I félt the hóuse sháke last night. (felt, house, shake に強勢が置かれる)

(注) I sáw him rúnning down. (目的語が代名詞のため saw, running に強勢が置かれる)

- ⑥前置詞＋名詞の場合、通常、名詞に強勢が置かれるが、名詞が代名詞の場合、前置詞に強勢が置かれる。

by cár, in cláss, in posítion, ín it, ínto it, wíth it,

(注) Lóok at it (him). Thínk of it. (前置詞の前の動詞 look, think に強勢が置かれる)

It's a cáll for yóu. (call に強勢が置かれるため、代名詞 you に強勢が置かれる)

- ⑦動詞＋副詞(＝前置詞＋名詞)の場合、通常、名詞に強勢が置かれる。

go to schóol, go by cár,

- ⑧動詞＋副詞(不変化詞)の場合、不変化詞に強勢が置かれる傾向がある。但し、不変化詞が前置詞の場合、動詞に強勢が置かれる。

sit dówn, make úp, get úp, take óff, watch óut, lóok at, léarn from,

- ⑨同一の品詞が連続する場合、通常、最後の単語に強勢が置かれる。

very fást, very wéll, quite wéll, very slówly, much cléarly, more cléarly,

- ⑩名詞＋to 不定詞の場合、意味によって強勢の位置は異なる(4: 633-638)。

I have a bóy to see. (今ここに少年がいる。boy に強勢が置かれる)

I have a boy to sée. (これから少年に会う。see に強勢が置かれる)

## ②文強勢(sentence stress)

- ①通常、文強勢が置かれる語：

- ①動詞(主として複音節語)、名詞、形容詞、副詞、疑問詞、指示詞、間投詞、などには、通常、強勢が置かれる。

- ②否定辞 no, none, not, never, neither, nor や否定辞 not を含む縮約形 don't, des'n't, can't, haven't などには、通常、強勢が置かれる。

- ③副詞的用法の再帰代名詞(reflective pronoun)には強勢が置かれる。

They arranged the event themséives. He did it hímsélf.

(注) He ásked hímsélf. (自問した。asked に強勢が置かれる。hímsélf は目的語)

He ásked hímsélf. (自分自身で尋ねた。hímsélf に強勢が置かれる)

- ④副詞的不変化詞には、通常、強勢が置かれる。

What's úp? The idea was on the way ín.

- ⑤名詞を含む数量詞には、通常、強勢が置かれる(強勢は名詞の主音節に置かれる)。

a glásss of milk, a lótt of homework, it takes a lótt (a gréat déal),

- ⑥the＋比較級, the＋比較級の場合、後の比較級に強勢が置かれる。

the newer the bétter, the more the mérrier,

- ⑧この他、通常、強勢が置かれる例として、数詞 (one, two, three, など)、肯定命令文の主語 You, 所有代名詞 (mine, yours, hers, his など)、one's own (own に強勢)、否定辞と共に用いられた any, 推量・願望・祈願 (祈念)・義務 (必要) を表す助動詞、文頭の前置詞、群接続詞 (as soon as, such...that, in order that, 等) や接続副詞 (however, namely, hence, therefore, 等)、(助)動詞 dare などがある。
- ⑨通常、文強勢が置かれない語：
- ⑨a 不定代名詞、人称代名詞、助動詞 (be 動詞と have 動詞を含み、文尾を除く)、関係詞、前置詞 (文頭と文尾を除く)、接続詞、冠詞などには、通常、強勢が置かれない。  
cf. what you are (.), what you have (.), do all you can (.), What is it about ?
- ⑨b 動詞に置かれる強勢は他の文強勢に比べ弱い。従って、比較的速く弱く発音される傾向がある。速い発話ではこの傾向は一層強くなり、一般に、補語をとる自動詞 (look, get, seem, sound など) には強勢は置かれず、また、単音節の動詞 (have, be, say, see, go, know など) にも強勢は置かれないことが多い。
- ⑨c 文頭の Now, So, Then などには、通常、強勢は置かれない。但し、文頭であっても、否定辞 Not には強勢が置かれる。
- ⑨d 副詞 again には、通常、強勢は置かれないが、(2度目、または)繰り返しを強調する場合には、強勢が置かれる。  
He did it again!
- ⑨e 相互代名詞の one another, each other には、通常、強勢は置かれない (前の動詞に強勢が置かれる)。  
They looked at each other. They like each other.
- ⑨f 所有形容詞 (人称代名詞の所有格 my, his, their など) には、通常、強勢は置かれない。
- ⑨g 副詞の enough, 感嘆文を導く what, how, などには、通常、強勢は置かれない。
- ⑩上記のいずれともいえない語 —— 通常、文強勢に中間的な語 (19: 160-161, 5: 83-96) :  
助動詞 (used to, be able to, be about to, 推量の should など)、数量詞 (a few, much, some など)、指示形容詞 (this + 名詞, that + 名詞)、程度を表す副詞 (a little, most, much, rather, too, so, so much, 等) など。この他、音声環境によって、文強勢は、リズムを保持するため、また、強意や対照などの意図を表すため本来の位置からずれることがある。さらに、否定辞を含む縮約形 don't, can't, isn't などには、強勢が置かれないこともある。

本節では、これまで、英語の句強勢や文強勢の一般的な型 (規則) についてその一部を論じてきたが、以上の他、強勢規則との関連で、学習の進展に応じて、学習者に語のスペリングと発音・強勢に関する知識 (phonics) を与える事も必要になってこよう<sup>2)</sup>。

## § VI イントネーション(intonation) —— 言語の旋律(melody)

英語の発話において音連続に付随し、強勢同様、音韻的特徴をもつものにイントネーションがある。目標言語の正確なリズムとイントネーションを併せ用いることで、学習者の母国語訛をある程度避けることも可能といわれており、目標言語の個々の音素の正確な識別・発表能力と同様、自然なイントネーションの習得は英語教育において重要な教授・学習目標といえることができる。

イントネーションは音の高低(pitch)の度合いの連続的な動きによって決定される音調曲線(contour)によって示されるが、発話者はこの旋律の流れを微妙に変化させることで、様々なニュアンスの違いを伴った多様な心的態度を聞き手に伝えることが可能である。学習者には、このため、AV機器の活用によって、音声英語を聴取する機会をできるだけ多く与え、日本語の比較的平板なイントネーションの型をそのまま英語の発話へもちこまないよう、英語的な音の高低の変動の型について留意させる必要がある。

以下は同一の表層構造をもつ発話文がイントネーションや末尾接続の違いによって意味(含蓄)の違いを生ずる例である：

- { I thought he would come. (but he did not come. 文尾は下降調になり、comeに強勢が置かれる。)  
 { I thought he would come. (and he did come. 文尾は下降上昇調になり、thoughtに強勢が置かれる。)

- { I hit || the man with the stick. (=I hit the man who had the stick. 上昇末尾接続がhitの後に生ずる。文尾は下降音調になる。)  
 { I hit the man || with the stick. (=The man was hit with a stick by me. 上昇末尾接続がmanの後に生ずる。文尾は下降音調になる。) (12: 314-319)

- { Shall I go in with you? ÓK. (=approval, Oの上に強勢が置かれる。)  
 { Shall I go in with you? That's ÓK. (=that's unnecessary, Kの上に強勢が置かれる。)

- { She didn't come || because it was raining. (雨が降るから来なかった。comeに強勢、上昇調末尾接続がcomeの後に生ずる。rainingに強勢が置かれ、文尾は下降調になる。)  
 { She didn't come because it was raining. (彼女は来たが、雨が降るから来たのではない。rainingに強勢が置かれ、文尾は下降上昇調になる。)

- { He said, "Shé said." (Sheに強勢、Sheの母音が長音化する)  
 { "Hé said." she said. (Heに強勢、Heの母音が長音化する)

この他、次の例にみるように、部分否定と全部否定の意味の違いを表す場合にも、イントネーションは大きな役割を果たしている。

- { All of us are not rich. (全部否定。richに強勢が置かれ、文尾は下降調、それ以外は高位になる。)  
 { All of us are not rich. (部分否定。Allに強勢が置かれ下降調、それ以外は平坦調になり、文尾は上昇音調になる。)

### § VII 内部接続(juncture)

前節でみたように、英語では、イントネーションとの関連で音連続の途切れ(休止、中断または時間的隔たり)が音韻的差異を生ずることがあり、接続(juncture)とよばれている。場面的・意味的脈絡を伴った通常の会話では接続が意味的誤解を生ずることは比較的稀であるが、同時に複数の解釈が可能な場合には誤解を生み易い。接続には、大別して、氣息語群の末尾、言い換えれば、語句や文の終わりに生ずる末尾接続(terminal juncture) — 下降接続、上昇接続、平坦接続 — と語や語句の内部に生ずる音連続の切れ目である内部接続(internal juncture)がある。末尾接続については、既に前節においてイントネーションとの関連で触れる機会があり、本節では、以下、語や語句の内部に生じ、わずかな音連続の切れ目となって意味の境界を明示する内部(解放)接続について簡単に述べてみることにしたい(11: 151-153)。

- { light+housekeeper# (lightとhouseの音節間の時間的隔たりは大きく両語の関係は粗になる。)  
 { lighthouse+keeper# (lightとhouseの音節間の時間的隔たりは小さく両語の関係は密になる。)  
 (19: 313-314)

- { ice+cream/ais kri:m/# (iceに強勢、子音/s/と子音/k/間の時間的隔たりは大きく、/k/は帯気音を生ずる。)  
 { I+scréam/ai skri:m/# (screamに強勢、母音/ai/と子音/s/間の時間的隔たりは大きく、/ai/は長母音化する。)

- { a+náme/ə neim/# (nameに強勢、母音/ə/と子音/n/間の時間的隔たりは大きく、単独母音/ə/が長音化する。/ə/は鼻音化しない。)  
 { an+áim/ən eim/# (aimに強勢、子音/n/と母音/ei/間の時間的隔たりは大きく、/n/が長音化し、/ə/は鼻音化する。)

先にも触れたように、接続は、イントネーションの型同様、発話において音韻的性格をもち、意

味の違いを生ずる言語内装置 — かぶせ音素 (suprasegmental phoneme) — としての機能を果たしている。英語による対話練習や聞き取り練習を行う際には、語句や文中における息継ぎの位置、言い換えれば、意味の区別を生ずる微妙な発音の切れ目についても学習者は十分注意を払い、分節音素 (segmental phoneme) 同様、この面での言語認識を高めてゆく必要がある。

## § VII 英語の音声変化 (sound change in segments)

本節で取り扱う英語の発話における形態素内や形態素接合部の分節音の変化例については、既に拙論で触れる機会があり\*、ここでは、先の分析とはやや異なった観点から音声変化の諸相を、(1) 連結、(2) 同化、(3) 融合、(4) 脱落、などに区分し、以下、順次まとめてみることにしたい。

① 子音 + (半) 母音連結 (liaison) — 語尾子音が次の語の語頭母音と連結して発音される場合。

実際の発話では、形態素 (morpheme) の境界が必ずしも音節 (syllable) の境界にはならないことを示すものといえる。分節音の動的転置ともいわれ、速い発話では後続の弱母音 /ə/ が発音されないこともある。子音 + (半) 母音連結には /p, t, d, k/—連結、/m, n, ŋ/—連結、/l/—連結、/tʃ/—連結、/s, z, θ, ð/—連結、/r/—連結、などの例がある (以下は /ð, n, ŋ/—連結の例)。

/ð/—連結:

with all of them/wiðɔ:l/, with a friend/wiðə/,

/ŋ/—連結:

the king and I/kiŋən/, thinking of (about)/θiŋkiŋəv(əbaut)/, falling again/fɔ:liŋəgein/,  
nothing in particular/nʌθiŋin/, is everything all right/evriθiŋɔ:lrait/?

/n/ + /j/—連結:

in your hand/in jə hænd/→/injə hænd/, one year/wʌn jɪə/→/wʌnɔ:njɪə/,

② 同化 (assimilation) — ある音素が前または後の音素の影響で他の音素に変化する場合。同化の後、しばしば融合 (coalescence) を生ずる。同化には、(1) 発声上の同化 (無声音 ↔ 有声音)、(2) 調音点の同化、(3) 調音法の同化、(4) 鼻音化、があり、(2) の調音点の同化に多くの例がみられる。本項ではこれらの音声同化について、以下、進行性同化 (並置・非並置同化) および逆行性同化 (並置・非並置同化) の観点からそれぞれ具体例をみていくことにしたい。

Ⓐ 進行性同化 (progressive assimilation) — 前の音素の影響で後続の音素が変化する場合。

Ⓐ 並置同化 (juxtapositional assimilation) — 語と語の境界 (複合語の境界を含む) に生ずる場合。

発声上の同化 (voice) — 有声音 (voiced) ⇔ 無声音 (voiceless) の場合が一般的、但し、

/b d g/ → /p t k/ の音声変化は稀:

\* 「言語のリズムと語彙の連合 — Listening 指導の基本点 —」, 『鹿児島大学教育学部研究紀要・教育科学編』, pp. 113-131, 第42巻, 1991。

/ð/⇨/θ/: (17: 142, 7: 78)

both these/bouθ ði:z/→/bouθ θi:z/→/bouθi:z/(融合), if there could be/if ðεə kud bi/→/fθekəbi/, that's the news/ðæts ðə nju:z/→/ðætsθnju:z/, to the public/

/v/⇨/f/: (7: 69)

Bank of England/bæŋk əv ɪŋɡlənd/→/bæŋkfɪŋɡlənd/(of の母音/ə/が脱落),

/b/⇨/p/: (7: 61)

must be/mʌst bi/→/mʌs bi/(/t/が脱落)→/mʌspi/(/mʌsbi/),

調音点の同化(articulation point):

/n/⇨/m/:

pop and mom/pɒp n mɒm/→/pɒpm mɒm/, hop and step/hɒp n step/→/hɒpm step/,  
up and down/ʌp n daʊn/→/ʌpm daʊn/,

/n/⇨/ŋ/:

back and forth/bæk n fɔ:θ/→/bækŋ fɔ:θ/, big and small/big n smɔ:l/→/bigŋ smɔ:l/,  
rock-and-roll/rɒk'nroul/→/rɒkŋroul/,

調音法の同化(articulation method):

/j/⇨/ʃ/:

cash your check/kæʃ jə/→/kæʃ ʃə/→/kæʃə/(融合), wish you/wɪʃ ju/→/wɪʃ ʃu/→  
/wɪʃu/(融合),

鼻音化(nasalization):

/d/⇨/n/: /n/+ /d/#//#V,

mind if/maind if/→/mainn if/→/mainif/,

/ð/⇨/n/:

on that note/ɔn ðæt nout/→/ɔn næd nout/→/ɔnæd nout/(融合), in the way of  
/in ðə wei əv/→/in nə wei əv/→/inə wei əv/, hang in there/hæŋ in ðεə/  
→/hæŋin nəə/, mention that/menʃən ðæt/→/menʃən næt/,

②非並置同化(non-juxtapositional assimilation) —— 語の内部に生ずる場合。

発声上の同化(voice):

/s/⇨/z/:

to us/ʌs/→/ʌz/, blouse/blaus/→/blauz/, erase/ireis/→/ireiz/, blues/blu:s/→/blu:z/,

/θ/⇨/ð/:

forthwith/fɔrθwiθ/→/fɔrθwið/, badmouth/bædmauθ/→/bædmauð/, bequeath/bikwi:θ/  
→/bikwi:ð/,

/tʃ/⇔/dʒ/:

spinach/spɪnɪtʃ/→/spɪnɪdʒ/, Norwich/nɔːrɪtʃ/→/nɔːrɪdʒ/, Greenwich/grɪnɪtʃ/→/grɪnɪdʒ/,

/fs/⇔/vz/: 発声同化が連続して生ずる

calf's foot jelly/kæfsfʊtdʒeli/→/kævzfʊtdʒeli/,

/θs/⇔/ðz/: 発声同化が連続して生ずる

oaths/ouθs/→/ouðz/,

/θt/⇔/ðd/: 発声同化が連続して生ずる

toothed/tu:θt/→/tu:ðd/, loudmouthed/laudmauθt/→/laudmauðd/,

調音点の同化(articulation point):

/n/⇔/m/:

open/oupn/→/oupm/, happen/hæpən/→/hæpm/ (/ə/が脱落)→/hæpm/, ribbon/ribən/→/ribn/ (/ə/が脱落)→/ribm/, steepen/sti:pən/→/sti:pm/, columnist/kələmnɪst/→/kələmmɪst/→/kələmnɪst/,

/n/⇔/ŋ/:

reckon/rekən/→/rekn/ (/ə/が脱落)→/rekŋ/,

/ŋ/⇔/n/:

length/leŋkθ/→/leŋθ/ (/k/が脱落)→/lenθ/,

鼻音化(nasalization):

/b/⇔/m/: /m/+ /b/+ V,

remember/rɪmembə/→/rɪmemmə/→/rɪmemə/,

/d/⇔/n/: /n/+ /d/+ V,

wonderful/wʌndəfəl/→/wʌnnəfəl/→/wʌnəfəl/ (融合), handicapped/hændɪkæpt/→/hænnɪkæpt/→/hænikæpt/, disbanding/dɪsbændɪŋ/→/dɪsbænnɪŋ/→/dɪsbænɪŋ/, expenditure/ɪkspendɪtʃə/→/ɪkspennɪtʃə/→/ɪkspenɪtʃə/,

③逆行性同化(regressive or anticipatory assimilation)——後の音素の影響で前の音素が変化する場合。

④並置同化(juxtapositional assimilation)——語と語の境界(複合語の境界を含む)に生ずる場合。

発声上の同化(voice)——有声音(voiced)⇔無声音(voiceless)の場合が一般的、但し、

/b d g/→/p t k/の音声変化は稀:

/v/⇔/f/:

five percent/faɪv pəsent/→/faɪf pəsent/, they've founded/ðeɪv faʊndɪd/→/ðeɪf faʊndɪd/,

/z/⇔/s/:

newspaper /n(j)u:zpeipə/ → /n(j)u:speipə/, newsstand /nju:zstænd/ → /nju:sstænd/  
→ /nju:stænd/, actions speak /ækʃənz spi:k/ → /ækʃəns spi:k/ → /ækʃənspi:k/,

/ð/⇔/θ/:

with thought /wið θɔ:t/ → /wiθ θɔ:t/ → /wiθɔ:t/ (融合), with fear /wið fiə/ → /wiθ fiə/,  
調音点の同化 (articulation point) — 語尾子音 /m, ŋ/ の同化は稀 (11: 257):

/d/⇔/b/:

good-by /gʊdbai/ → /gʊbbai/ → /gʊbai/ (融合), good point /gʊd pɔɪnt/ → /gʊb pɔɪnt/,  
breadbasket /bredbæskit/ → /brebbæskit/ → /brebæskit/ (融合),

/d/⇔/g/:

kid gloves /kid glʌvz/ → /kig glʌvz/ → /kiglʌvz/ (融合), should call /ʃʊd kɔ:l/ → /ʃʊg  
kɔ:l/, broadcast /brɔ:dkɑ:st/ → /brɔ:gkɑ:st/,

/k/⇔/p/: /p/ は不完全な両唇破裂 (閉鎖) 音

poke fun at /pouk fʌn æt/ → /poup fʌnæt/,

/l/⇔/j/:

tell you /tel ju/ → /tej ju/ → /teju/ (融合), will you /wil ju/ → /wij ju/ → /wiju/ (融合),

/m/⇔/ŋ/: (7: 58)

I'm going /aim gouɪŋ/ → /aiŋ gouɪŋ/,

/n/⇔/m/: (7: 58)

ten percent /ten pəsent/ → /tem pəsent/, Commonwealth /kɒmənwelə/ → /kɒməmwelə/,  
one minute /wʌn mɪnɪt/ → /wʌm mɪnɪt/ → /wʌmɪnɪt/ (融合), in part /ɪn pɑ:t/ → /ɪm pɑ:t/,  
bread and butter /brednbʌtə/ → /bredmbʌtə/,

/n/⇔/ŋ/:

one year /wʌn jɪə/ → /wʌŋjɪə/, can go /kən gou/ → /kəŋgou/, on your /ɔn jə/ → /ɔŋjə/,  
mankind /mænkaind/ → /mæŋkaind/, can come /kən kʌm/ → /kəŋkʌm/,

/s/⇔/ʃ/:

this ship /ðɪs ʃɪp/ → /ðɪʃʃɪp/ → /ðɪʃɪp/, nice show /naɪs ʃou/ → /naɪʃʃou/ → /naɪʃou/ (融  
合), horseshoe /hɔ:sʃu:/ → /hɔ:ʃʃu:/ → /hɔ:ʃu:/ (融合),

/t/⇔/k/:

not going to /nɒt gouɪŋ tə/ → /nɒkɡounə/, cute girl /kjut gɜ:l/ → /kju:k gɜ:l/, it  
can /ɪt kən/ → /ɪk kən/ → /ɪkən/, get curious /get kjuəriəs/ → /gekjuəriəs/,

/t/⇔/p/: (7: 58)

get married /get mærid/ → /gep mærid/, promote public interest /prəməut pʌblɪk/  
→ /prəməup pʌblɪk/ → /prəməupʌblɪk/ (融合), white people /waɪt pi:pl/ → /waɪp pi:pl/



→/waipi:pl/, Great Britain/greit britn/→/greip britn/, let me/let mi/→/lep mi/,  
/t/⇨/tʃ/:

chit-chat/tʃittʃæt/→/tʃitʃtʃæt/→/tʃitʃæt/(融合),

/z/⇨/ʒ/: (7: 58)

is she/iz ʃi/→/iʒ ʃi/, does she/dʌz ʃi/→/dʌʒ ʃi/, was she/wəz ʃi/→/wəʒ ʃi/,  
has she/həz ʃi/→/həʒ ʃi/, Times Share/taimz ʃeə/→/taimʒ ʃeə/,

/θ/⇨/s/:

both sides/bouθ saidz/→/boussaidz/→/bousaidz/(融合),

鼻音化(nasalization):

/d/⇨/m/:

midmorning/midmɔ:nɪŋ/→/mimmɔ:nɪŋ/→/mimɔ:nɪŋ/(融合), midmost/midmoust/  
→/mimmoust/→/mimoust/(融合),

/d/⇨/n/:

kidnap/kidnæp/→/kinnæp/→/kinæp/(融合), good night/gud nait/→/gun nait/  
→/gunait/(融合), midnight/midnait/→/minnait/→/minait/(融合),

/v/⇨/m/: 調音点同化も生ずる。

give more/giv mɔ:/→/gim mɔ:/→/gimɔ:/(融合),

進行性非並置鼻音化と非並置融合および逆行性並置鼻音化が連続して生じた例。

splendid moment/splendid moumɛnt/→/splennim moumɛnt/→/splenim moumɛnt/  
(融合),

逆行性並置発声同化と逆行性並置調音点同化および並置融合が連続して生じた例。

newssheet/nju:zʃi:t/→/nju:sʃi:t/(同化)→/nju:ʃʃi:t/(同化)→/nju:ʃi:t/(融合),

逆行性並置調音点同化と逆行性並置発声同化および並置融合が連続して生じた例。

these shows/ði:z ʃouz/→/ði:ʒ ʃouz/(逆行性調音点同化)→/ði:ʃ ʃouz/(逆行性発声同化)  
→/ði:ʃouz/(融合),

非並置脱落と逆行性並置同化が連続して生じた例。

always ready/ɔ:lweiz redi/→/ɔ:weiʒ redi/,

並置脱落と逆行性並置発声同化が連続して生じた例。

is believed to/iz bili:v d tə/→/iz bili:v tə/→/iz bili:ftə/,

並置脱落と逆行性並置調音点同化が連続して生じた例(19: 294)。

wouldn't go/wudnt gou/→/wudn gou/→/wudŋgou/→/wudŋŋgou/,

②非並置同化(non-juxtapositional assimilation)——語の内部に生ずる場合。

発声上の同化(voice):

/d/⇔/t/: (7: 69)

breadth(ways)/bredθ(weiz)/→/bretθ(weiz)/, width/widθ/→/witθ/, (a)midst/(ə)midst/  
→/(ə)mitst/, dictating/dikteitɪŋ/→/tkteitɪŋ/,

調音点の同化(articulation point):

/l/⇔/j/: (17: 143)

evaluate/ivæljueit/→/ivæjueit/→/ivæjueit/(融合),

/n/⇔/m/: /nf, nv/→/mf, mv/の場合, /m/は不完全な両唇音。

Canberra/kænbərə/→/kæmbərə/, unbelievable/ʌnbilivəbl/→/ʌmbilivəbl/, input/→/imput/, canvas(s)/kænvəs/→/kæmvəs/, inmate/inmeit/→/immeit/→/imeit/(融合),  
infamous/infəməs/→/imfəməs/,

/n/⇔/ŋ/:

incur/inkə:/→/iŋkə:/, incubate/inkjubeit/→/iŋkjubeit/, incumbent/inkʌmbənt/  
→/iŋkʌmbənt/, concrete/kɒŋkri:t/→/kɒŋkri:t/, uncover/ʌŋkʌvə/→/ʌŋkʌvə/, income  
/inkəm/→/iŋkəm/, penguin/pengwin/→/peŋgwin/,

/p/⇔/t/:

wiped out/waipɪt aʊt/→/waitɪt aʊt/→/waitaʊt/(融合と連結),

/s/⇔/ʃ/:

transship/trænsʃip/→/trænsʃip/→/trænsʃip(融合),

/θ/⇔/t/:

months/mʌnθs/→/mʌnts/, Bentham/benθəm/→/bentəm/, Xanthippe/zænθipi/  
→/zæntipi/,

/ŋ/⇔/n/:

conch/kɒŋk/→/kɒntʃ/, strength/streŋkθ/→/streŋθ/→/strenθ/,

鼻音化(nasalization):

/ð/⇔/n/:

that's good/ðæts gud/→/næts gud/, they'll/ðel/→/nel/, there/ðeə/→/neə/,

非並置脱落と逆行性非並置調音点同化が連続して生じた例。

length/leŋkθ/→/lepθ/→/lenθ/,

逆行性非並置調音点同化と非並置融合および非並置脱落が連続して生じた例。

governmental/gʌvənməntl/→/gʌvəmmenl/(同化と脱落)→/gʌvəmenl/(融合),

逆行性非並置調音点同化と非並置脱落および非並置融合が連続して生じた例。

environmental/*invairənməntl*/→*imvairəmmənl*/ (同化と脱落)→*imvairəmənl*/ (融合),

◎進行性同化と逆行性同化が発声上の同化として同時に生ずることがある。以下は無声子音が有声音に前後を挟まれ有声音化した例。

①並置同化(juxtapositional assimilation)。

発声上の同化(voice)——無声音(voiceless)⇔有声音(voiced):

/f/⇔v/:

if/*iv*/I want something,

/k/⇔g/:

background/*bækgraund*/→*bægggraund*/→*bægraund*/ (融合), book bag/*buk bæg*/  
→*bug bæg*/,

/p/⇔b/:

pop music/*pɒp mju:zik*/→*pɒb mju:zik*/, top brass/*tɒp bræs*/→*tɒb bræs*/→*tɒbræs*/  
(融合),

/t/⇔d/:

a rate on/*ə reit ɔn*/→*ə reid ɔn*/, a lot of/*ə lɒt əv*/→*ə lɒd əv*/, part of me  
/*pɑ:t əv*/→*pɑ:d əv*/, what if/*wɒt if*/→*wɒd if*/, what I/*wɒt ai*/→*wɒd ai*/, eat up  
/*e:t ʌp*/→*e:dʌp*/, cut the tip/*kʌt ðə tip*/→*kʌd ðə tip*/,

/θ/⇔ð/:

birthday/*bə:θdeɪ*/→*bə:ðdeɪ*/,

②非並置同化(non-juxtapositional assimilation)。

発声上の同化(voice)——無声音(voiceless)⇔有声音(voiced):

/f/⇔v/:

nephew/*nefju:*/→*nevju:*/,

/p/⇔b/:

uphold/*ʌphould*/→*ʌbhould*/,

/s/⇔z/: trans/*træns*/ + voiced → trans/*trænz*/ + voiced,

translate/*trænsleit*/→*trænzleit*/, complaisant/*kəmpleisnt*/→*kəmpleiznt*/, jasmin(e)  
/*dʒæsmin*/→*dʒæzmin*/, ramson/*ræmsən*/→*rænzən*/,

/t/⇔d/:

patty/*pæti*/→*pædi*/, little/*litl*/→*lidl*/, meeting/*mi:tiŋ*/→*mi:diŋ*/, nutty/*nʌti*/  
→*nʌdi*/, beautiful/*bju:təfəl*/→*bju:dəfəl*/, Toyota/*toioutə*/→*toioudə*/,

/ʃ/⇔/ʒ/:

excursion/ikskə:ʃən/→/ikskə:ʒən/, equation/ikweɪʃən/→/ikweɪʒən/, Asia/eɪʃə/  
→/eɪʒə/, immersion/ɪmə:ʃən/→/ɪmə:ʒən/, version/və:ʃən/→/və:ʒən/, aversion/əvə:ʃən/  
→/əvə:ʒən/,

/θ/⇔/ð/:

northing/nɔ:θɪŋ/→/nɔ:ðɪŋ/, zither/ziθə/→/ziðə/, smithy/smiθi/→/smiði/, everything  
/evriθɪŋ/→/evriðiŋ/, withdraw/wɪðdrɔ:/→/wiðdrɔ:/,

/ks/⇔/gz/: 発声同化が連続して生ずる。

exacerbate/eksæsəbeɪt/→/ɪgzæsəbeɪt/, exhalation/eksəleɪʃən/→/egzəleɪʃən/, exhume  
/ɪksu:m/→/ɪgzu:m/, exultation/eksəlteɪʃən/→/egzəlteɪʃən/, exit/eksɪt/→/egzɪt/,

進行・逆行性非並置発声同化と非並置脱落が連続して生じた例。

Atlantic/ətɹæntɪk/→/ədɹænɪk/,

進行・逆行性非並置発声同化が連続して生じた例。

chrysanthemum/krisænθəməm/→/krɪzænðəməm/,

音声同化(assimilation)の分類については、上記視点(進行性・逆行性同化)の他、以下の3視点に基づく場合もある(19: 297)。

①相互的同化(reciprocal assimilation)——2つの異なった音素が1つの別の音素になる場合(融合の項参照)。

②並置同化(juxtapositional assimilation)。

/d/+j/⇔/dʒ/:

did you/dɪd ju/→/dɪdʒ ju/→/dɪdʒ dʒu/→/dɪdʒu/(融合)

/s/+j/⇔/ʃ/:

this year/ðɪs jɪə/→/ðɪʃ jɪə/→/ðɪʃ ʃɪə/(発声同化も生ずる)→/ðɪʃɪə/(融合), unless you  
/ənles ju/→/ənleʃ ju/→/ənleʃ ʃu/→/ənleʃu/(融合),

/z/+j/⇔/ʒ/:

is your sister/ɪz jə sɪstə/→/ɪʒ jə sɪstə/→/ɪʒ zə sɪstə/→/ɪʒə sɪstə/(融合), as you  
/əz ju/→/əʒ ju/→/əʒ zju/→/əʒju/(融合),

③非並置同化(non-juxtapositional assimilation)。

/t/+j/⇔/tʃ/:

aptitude/æptɪtju:d/→/æptɪtʃu:d/, vicissitude/vɪsɪsətju:d/→/vɪsɪsətʃu:d/,

㊦完全同化(complete or full assimilation)—— 2つの異なった音素がいずれか一方と同じ音素になる場合。

㊦並置同化(juxtapositional assimilation)。

/d/⇔/b/:

good boy/gud bɔi/→/gub bɔi/→/gubɔi/(融合),

/s/⇔/ʃ/:

this ship/ðis ʃip/→/ðɪʃʃip/(逆行性完全同化)→/ðɪʃip/(融合), spaceship/speɪsʃɪp/  
→/speɪʃʃɪp/→/speɪʃɪp/, nice shoe/nais ʃu:/→/naɪʃʃu:/→/naɪʃu:/,

/t/⇔/k/:

what can I/wɒt kæn ai/→/wɒk kænai/(逆行性完全同化)→/wɒkænai/(融合), nightcap  
/naɪtkæp/→/naɪkkæp/(逆行性完全同化)→/naɪkæp/(融合),

/t/⇔/p/:

note pad/nout pæd/→/noup pæd/(逆行性完全同化)→/noupæd/(融合),

㊦非並置同化(non-juxtapositional assimilation)。

/t/⇔/k/: (13: 103)

Watkins/watkinz/→/wɒkkinz/→/wɒkinz/,

/t/⇔/p/:

outpost/autpoust/→/auppoust/→/aupoust/,

㊦不完全同化(incomplete or partial assimilation)—— 2つの音素のうち一方が同化され、調音点が同じになる場合。

㊦並置同化(juxtapositional assimilation)。

/d/⇔/b/:

hard-pressed/hɑ:dprest/→/hɑ:bprest/,

/d/⇔/g/:

England Club/ɪŋɡlənd klʌb/→/ɪŋɡləŋɡ klʌb/→/ɪŋɡləŋɡ klʌb/, broadcast/brɔ:dkæst/  
→/brɔ:ɡkæst/,

/n/⇔/m/:

ten percent/ten pəsənt/→/tem pəsənt/, gone back/gɒn bæk/→/gɒm bæk/, gunpoint  
/ɡʌnpɔɪnt/→/ɡʌmpɔɪnt/, can be/kæn bi/→/kæm bi/,

/n/⇔/ŋ/:

one cup/wʌn kʌp/→/wʌŋkʌp/,

/t/⇔/p/:

cut myself/kʌt maɪself/→/kʌp maɪself/, that moment/ðæt maʊmənt/→/ðæp maʊmənt/,  
at most/ət maʊst/→/əp maʊst/, seatbelt/si:tbelt/→/si:pbelt/,

/z/⇔/ʒ/: (13: 103)

does she/dʌz ʃi/→/dʌʒ ʃi/, has she/həz ʃi/→/həʒ ʃi/, is she/ɪz ʃi/→/ɪʒ ʃi/,  
was she/wəz ʃi/→/wəʒ ʃi/, those shops, where's yours,

⑥非並置同化(non-juxtapositional assimilation)。

/d/⇔/t/:

amidst/əmidst/→/əmitst/,

以下に示す表-I は英語の音声同化について発音様式と同化形態の面からこれまで述べてきた内容をまとめたものである。

表-I  
—— 同化(assimilation)の分類 ——

発音様式 同化形態	発声同化 (有声音⇔無声音)	調音点同化	調音法同化	鼻音化
進行性並置同化	例まれ。 * 無声音⇒有声音。 /bdg/⇒/ptk/(例まれ)。 ⊘ 進行・逆行性並置同化。	○	例まれ	例まれ
進行性非並置同化	○ ⊘ 進行・逆行性非並置同化。	○	例まれ 亦はなし	例まれ
逆行性並置同化	○ * 無声音⇒有声音。 /bdg/⇒/ptk/(例まれ)。 ⊘ 進行・逆行性並置同化。	○ * /g/#/⇒/m/. * /m/#/⇒/n/.	例なし	○
逆行性非並置同化	○ ⊘ 進行・逆行性非並置同化。	○	例まれ 亦はなし	例まれ
相互性並置同化	例なし	○ (擦音化※) 融合の項参照	○ (擦音化※) 融合の項参照	例なし
相互性非並置同化	例なし	○ (擦音化※) 融合の項参照	○ (擦音化※) 融合の項参照	例なし
完全並置同化	○	○	例まれ	○
完全非並置同化	例まれ亦はなし	○	例まれ亦はなし	例まれ
不完全並置同化	○	○	例まれ亦なし	例なし
不完全非並置同化	○	○	例まれ	例なし

- \* 同化が生じないことを示す。  
○ 具体例が比較的多いことを示す。  
⊘ 前後を有声音に挟まれた無声子音が有声音化する例。  
#/ 語尾を示す。  
※ 擦音化(assibilation) = 硬口蓋音化(palatalization)。

③融合(coalescence or reduction)——たとえば、擦音化(assibilation)——語尾音/t, d, s, z/ + 語頭音/j/⇒/tʃ, dʒ, ʃ, ʒ/——のように、異なる複数の音素が相互に影響し合い、結果的に、1つの別の音素になる場合をいう。重複(doubling), および同じ音素が連続し1つの音素になる縮小(reduction)の場合も含まれる。融合は子音同様、母音の場合にも生ずるが、脱落(後出)と区別し難い場合がある。(注)以下、本節の例では、#/#は語と語の境界を示す(例 C#/#Vは語尾音が子音、語頭音が母音の略)。

④並置融合(juxtapositional coalescence)——重複(doubling)を含む。

子音の融合(consonant coalescence):

/d/#/#/j/⇒/dʒ/:

send you/send ju/→/sendʒu/, did you/did ju/→/didʒu/,

/s/#/#/j/⇒/ʃ/:

miss you/mis ju/→/miʃu/, else you/els ju/→/elʃu/,

/t/#/#/j/⇒/tʃ/:

get you/get ju/→/getʃu/, at your/ət jə/→/ətʃə/, last year/læst jə:/→/læstʃə:/,

got you/gɒt jə/→/gɒtʃə/, not yet/nɒt jet/→/nɒtʃet/,

/z/#/#/j/⇒/ʒ/:

has your/hæz jə/→/hæzə/, as you know/æz ju nou/→/æzə nou/, as yet/əz jet/→/əzjet/, these your/ði:z jə/→/ði:zə/,

/d/#/#/d/⇒/d:/:

salad days/sæləd deiz/→/sælədəiz/, headdress/heddres/→/hedres/, goddamn/gɒddæm/→/gɒdæm/,

/f/#/#/f/⇒/f:/:

half fare/hɑ:f feə/→/hɑ:feə/, half filled/hɑ:f fild/→/hɑ:fild/, wolffish/wulffɪʃ/→/wulfiʃ/,

/g/#/#/g/⇒/g:/:

big girl/big gə:l/→/bigə:l/,

/k/#/#/k/⇒/k:/:

look calm/luk kɑ:m/→/luka:m/, bookkeeper/bukki:pə/→/buki:pə/, crankcase/kræŋkkeis/→/kræŋkeis/,

/l/#/#/l/⇒/l:/:

tableland/teiblænd/→/teiblænd/, taillight/teillait/→/teilit/,

/m/#/#/m/⇒/m:/:

some more/sʌm mɔ:/→/sʌmɔ:/, teammate/ti:mmeit/→/ti:meit/, homemade/hoummeid/→/houmeid/, same map/seim mæp/→/seimæp/,

/n/#/#/n/⇨/n/:

can never/kən nevə/→/kənevə/, one night/wʌn nait/→/wʌnait/,

/p/#/#/p/⇨/p/:

keep practicing/ki:p præktisiŋ/→/ki:præktisiŋ/, lamppost/læmpoust/→/læmpoust/,  
skip practice/skip præktis/→/skipræktis/, stop playing/stɒp pleiŋ/→/stɒpleiŋ/,

/s/#/#/s/⇨/s/:

speaks slowly/spi:ks sləuli/→/spi:ksləuli/, gas stove/gæs stouv/→/gæstouv/, pace  
setter/peis setə/→/peisetə/, this stone/ðis stoun/→/ðistoun/,

/t/#/#/t/⇨/t/:

ought to/ɔ:t tə/→/ɔ:tə/, a ticket to/tikit tə/→/tikitə/, part-time/pɑ:ttaim/→/pɑ:taim/,  
hot tea/hɒt ti:/→/hɒti:/, write to/rait tə/→/raitə/,

/ʃ/#/#/ʃ/⇨/ʃ/:

brush shoes/brʌʃ ʃu:z/→/brʌʃu:z/,

/θ/#/#/θ/⇨/θ/:

both think/bəuθ θiŋk/→/bəuθiŋk/,

/ð/#/#/ð/⇨/ð/:

with them/wið ðəm/→/wiðəm/,

母音の融合 (vowel coalescence): (19: 299)

/i/#/#/i/⇨/i/:

the international/ði intənæʃənl/→/ðintənæʃənl/, the eternal/ði itə:nl/→/ðitə:nl/,  
I expect/ai ikspekt/→/aikspekt/ (/#/i/の脱落とも解せる),

/ə/#/#/ə/⇨/ə/:

to another/tə ənʌðə/→/tənʌðə/,

/ai/#/#/ə/⇨/ɑ:/:

tie again/tai əgen/→/ta:gen/,

/au/#/#/ə/⇨/ɑ:/:

how about/hau əbaut/→/hɑ:baut/,

/ou/#/#/ə/⇨/ə:/:

go ahead/gou əhed/→/gə:hed/, sew again/sou əgen/→/sə:gen/, go away/gou əwei/  
→/gə:wei/,

並置融合と非並置脱落が連続して生じた例。

want to/wɒnt tə/→/wɒnttə/→/wɒntə/→/wɒnə/, cf, wannabe/wɒnəbi/,



進行性並置鼻音化と動的転置および並置融合が連続して生じた例。

end up producing/end ʌp prədu:siŋ/→/ennʌ prədu:siŋ/→/enʌ prədu:siŋ/,

逆行性並置調音点同化と逆行性非並置調音点同化および並置融合が連続して生じた例 (13: 103)。

plant pot/plɑ:nt pɒt/→/plɑ:mɒt/→/plɑ:mpɒt/, stand back/stænd bæɪk/→/stæmb  
bæk/→/stæmbæk/, plant carrots/plɑ:nt kærəts/→/plɑ:ŋk kærəts/→/plɑ:ŋkærəts/,  
stand guard/stænd gɑ:d/→/stæŋg gɑ:d/→/stæŋgɑ:d/,

⑧非並置融合 (non-juxtapositional coalescence)——縮小 (reduction) を含む。

子音の融合 (consonant coalescence):

/d/ + /j/ ⇨ /dʒ/:

education/edʒukeiʃən/→/edʒukeiʃən/, fraudulent/frɒ:dʒulənt/→/frɒ:dʒulənt/, graduation  
/grædʒueiʃən/→/grædʒueiʃən/, endure/ɪndʒuə/→/ɪndʒuə/,

/s/ + /j/ ⇨ /ʃ/:

assume/əʃju:m/→/əʃu:m/, transude/trænsju:d/→/trænsju:d/, glacial/gleisjəl/→/gleifəl/,  
sexual/seksjuəl/→/seksjuəl/,

/t/ + /j/ ⇨ /tʃ/:

statute/stætju:t/→/stætʃu:t/, attitude/ætɪtju:d/→/ætɪtʃu:d/, student/stju:dnt/→/stʃu:dnt/,  
destitute/destətju:t/→/destətʃu:t/, habituate/həbitju:eɪt/→/həbitʃueɪt/,

/t/ + /juə/ ⇨ /ʃ/: (7: 70)

actually/æktjuəli/→/ækfli/,

/z/ + /j/ ⇨ /ʒ/:

presume/prɪzju:m/→/prɪʒu:m/, luxurious/lʌgzju(ə)riəs/→/lʌgzju(ə)riəs/, exhume/ɪgzju:m/  
→/ɪgzju:m/, exude/ɪgzju:d/→/ɪgzju:d/, visual/vɪzjuəl/→/vɪʒuəl/,

/l/ + /l/ ⇨ /l/:

soulless/soullɪs/→/soullɪs/, guileless/gaɪllɪs/→/gaɪllɪs/, muscleless/mʌsllɪs/→/mʌsllɪs/,

/n/ + /n/ ⇨ /n/:

unnerve/ʌnnə:v/→/ʌnnə:v/, openness/ɒpnɪs/→/ɒpnɪs/, unknown/ʌnnəʊn/→/ʌnnəʊn/,  
unnatural/ʌnnætʃərəl/→/ʌnnætʃərəl/, oneness/wʌnnɪs/→/wʌnnɪs/,

/s/ + /s/ ⇨ /s/:

dissymmetry/dɪsɪmətri/→/dɪsɪmətri/, dissimilar/dɪsɪmələ/→/dɪsɪmələ/, misspend  
/mɪsspend/→/mɪsspend/, misspell/mɪsspel/→/mɪspel/,

母音の融合 (vowel coalescence):

/i/ + /i/ ⇨ /i:/

immediately /imi:diitli/ → /immi:ditli/, voyage /vɔiɪdʒ/ → /vɔidʒ/, inappropriate /inəproupriit/ → /inəprouprit/, playing /pleiɪŋ/ → /pleiŋ/, implied /implaiɪd/ → /implaid/,

/ai/ + /ə/ ⇨ /a:/: (7: 64)

flyer /flaiə/ → /fla:/, fire /faɪə/ → /fa:/, Ireland /aiələnd/ → /a:lənd/,

/au/ + /ə/ ⇨ /a:/:

power /pauə/ → /pa:/, towel /tauəl/ → /ta:l/, vowel /vauəl/ → /va:l/, our /auə/ → /a:/,

/ei/ + /ə/ ⇨ /er/:

player /pleiə/ → /pler/,

/ou/ + /ə/, i/ ⇨ /ə:/: (7: 77)

playgoer /pleigouə/ → /pleigə:/, coalition /kouəlɪfən/ → /kə:lɪfən/, going /gouɪŋ/ → /gə:ŋ/,

④脱落 (elision) —— 周囲の音声環境によってある音素が失われ発音されない場合。縮約形にみられる省略 (omission) を含む。同じ音素の連続では、{(同化 →) 融合} のプロセスと区別し難い場合がある。

④A 並置脱落 (juxtapositional elision) —— 複合語の場合を含め、下線部の音素が脱落する。並置脱落には、尾音消失 (apocope) と頭音消失 (aphaeresis) の例がある。

子音の脱落 (consonant elision):

/d/ の脱落: C + /d/ # // # C, /d/ # // # /t/, /d/ # // # /d/, What # // # do(es) / did (11: 246),

/d/ の脱落では過去, 過去分詞の屈折 (-ed / d/) が脱落することもある (7: 61)。

What do · does · did /wɒt də//wɒt dɛz//wɒt did/ → /wɒtəz//wɒtɛz//wɒtid/, seemed good /si:md gud/ → /si:mgud/, handcuff /hændkʌf/ → /hænkʌf/ → /hæŋkʌf/, filled glass /fild glɑ:s/ → /filglɑ:s/, should do /ʃ(ə)d du:/ → /ʃ(ə)du:/, trend for, red team, believed to, downward trend,

cf. 史的同化: handkerchief /hæŋkətʃɪf/ (/hæŋkərtʃɪf/, /hæŋkətʃi:f), handsome /hænsəm/,

/h/ の脱落: # /h/ + /w/,

worthwhile /wə:θwail/ → /wə:θwail/, four-wheel /fɔ:hwi:l/ → /fɔ:wi:l/,

/l/ の脱落: V + /l/ # // # C,

all-right /ɔ:lraɪt/ → /ɔ:raɪt/, all wrong /ɔ:lɹɔŋ/ → /ɔ:ɹɔŋ/,

/n/ の脱落: V + /n/ # // # C (7: 66),

in the form /in ðə fɔ:m/ → /iðəfɔ:m/, between the /bitwi:n ðə/ → /bitwi:ðə/,

/p/の脱落: V + /p/ # // # /v/, C + /p/ # // # C,

clampdown/klæmpdaun/→/klæmdaun/, humpback/hʌmpbæk/→/hʌmbæk/, blimpshaped  
/blimpʃeɪpt/→/blimʃeɪpt/, deep voice,

/r/の脱落: C # // # /r/, / # C + /r/ + V (7: 65),

can't remember/kænt rɪmɛmbə/→/kæntɪmɛmbə/, come from/kʌm frəm/→/kʌmfəm/,

/t/の脱落: C + /t/ # // # C, V + /t/ # // # C, /n/ + /t/ # // # V, /t/ # // # /t/, /nt/ # // # C  
(/nt/ = n't), /t/の脱落では過去, 過去分詞の屈折(-ed/t/)が脱落することもある(7: 61)。

don't you/daʊnt ju/→/daʊn ju/, balanced diet/bælənst daɪət/→/bæləns daɪət/, fit  
you/fit ju/→/fi ju/, adjust to/ədʒʌst tə/→/ədʒʌstə/, postman/poustmən/→/pousmən/,  
at stake/ət steɪk/→/əsteɪk/, textbook/tekstbuk/→/teksbuk/, amout of/əmaʊnt əv/  
→/əmaʊnəv/, left knee/left ni:/→/lef ni:/,

/v/の脱落: /v/ # // # C (of, have など。母音は弱音化/ə/, have の語頭子音/h/は脱落する),

cup of tea/kʌp əv ti:/→/kʌpə ti:/, must have seen/məstə si:n/, right of veto/raɪt  
əv vi:tou/→/raɪtə vi:tou/, out of here/aʊt əv hiə/→/aʊtə hiə/, matter of fact  
/mætərəvʔækt/→/mætərəʔækt/, five p. m./faɪv pi:em/→/faɪpi:em/,

cf. must have eaten/mʌst əv i:tən/→/mʌstv i:tən/,

/ð/の脱落: C # // # /ð/ (7: 63), C # // # /ðəm/,

went the way of the/wentðə weɪəvðə/→/wentə weɪ:ðə/, give them hell/gɪv ðəm hel/  
→/gɪv'əm hel/gɪvəm hel/, took them/tuk ðəm/→/took'em/tukəm/, I think that was  
/aɪ θɪŋk ðæt wəz/→/ʌθɪŋkət wəz/, knock 'em dead,

/dz/の脱落: /n/ + /dz/ # // # /s/ (7: 61),

stands still/stændz stɪl/→/stænstɪl/ (/d/の脱落と/z/の発生同化・融合とも解せる),

半母音の脱落(semivowel elision): 慣例的

/w/の脱落: C # // # /w/,

tough one/tʌf wən/→/tʌfən/

母音の脱落(vowel elision):

/i/の脱落: 慣例的, / # / ði/ # // # V (V は/i/以外の母音), / # / it/ # // # V, # / i/ + /ts/ # /  
(7: 69),

the old man → th'old man (母音の連続を避けるため), it will/ɪt wɪl/→/twɪl/, it is/ɪt  
ɪz/→/tɪz/, it's/ɪts/→/ts/,

/ə/の脱落: / # / tə/ # // # C,

too late to mail/tə meɪl/→/tmeɪl/, to women/tə wɪmɪn/→/twɪmɪn/,

母音と子音の脱落 (assortment elision): (7: 70)

prices and incomes/praisiz ənd ɪŋkʌmz/→/praisɪŋkʌmz/, succeed in imposing/səksi:d  
in ɪmpəuzɪŋ/→/sksi:dmpəuzɪŋ/, this kind of presentation,

並置脱落と子音+母音連結が連続して生じた例。

isn't it/iznt it/→/izn it/→/iznit/, went up/went ʌp/→/wen ʌp/→/wenʌp/, want'em  
/wɒnt əm/→/wɒn əm/→/wɒnəm/,

並置脱落と逆行性並置調音点同化が連続して生じた例。

handpicked/hændpɪkt/→/hænpɪkt/→/hæmpɪkt/, grandpa/grændpɑ:/→/grænpɑ:/  
→/græmpɑ:/,

並置脱落と並置融合が連続または同時に生じた例(6: 192, 14: 198)。

don't know/dɒnt nou/→/dɒnnou/→/dɒnou/, best-selling/best-seliŋ/→/beseliŋ/  
→/beseliŋ/, Did you/dɪd jə/→/dʒə/, Do you/du: jə/→/dʒə/, What did you  
/(h)wɒt dɪd jə/→/wɒdʒə/, What is your/(h)wɒt ɪz jər/→/wɒtʃər/, Would you  
/wud jə/→/dʒə/,

並置脱落の後、逆行性並置調音点同化が連続して生じた例。

couldn't go/kudnt gou/→/kudngou/→/kudŋgou/→/kugŋgou/, wouldn't go/wudnt  
gou/→/wudn gou/→/wudŋgou/,

並置脱落の後、逆行性並置調音点同化と並置融合が連続して生じた例。

grandma/grændmɑ:/→/grænmɑ:/→/græmma:/→/græmɑ:/, handmade/hændmeid/  
→/hænmeid/→/hæmmeid/→/hæmeid/,

縮約 (contraction)——慣例的な縮約形(省略形)にみられる場合。

前接語縮約 (enclitic)——後の語の分節が脱落する場合。慣例的なものが殆どであり、以下に示すように多くの例がある。前接語縮約によって生じた not の短縮形 n't/nt/の/t/は脱落することが多く、前の語は強形(強形をもっている場合)で発音される(例 don't/dɒn/, doesn't/dʌzn/, isn't/ɪzn/, hadn't/hædn/, can't/kæn/など)。

I'd=I would/had, I'm=I am, I've=I have, I'll=I will, let's, there's=there is/has, there're=there are, there'll=there will/shall, they'd=they would/should/had, there'd=there had/would, on't=on it, who's=who is/has, when's=when is/has/does, could/should/would've=could/should/would have, what've=what have, do't=do it, what's=what is/has/does, thy're=they are, they've=they have, it's=it is/has, mustn't=must not, mayn't=may not, could/should/wouldn't=could/should/would not, they'll=they will/shall, what'll=what will/shall,

s/he's=s/he is/has,  
 後接語縮約 (proclitic)—— 前の語の分節が次の語の音節の一部として発音される場合 (母音/i/の並置脱落の項参照)。

ˈtwɪl/twɪl/=it will, ˈtwɒnˈt/twɒnt/=it won't, ˈtwɛrɛ/twɛrə/=it were, ˈtwɒs/twɒz/  
 =it was, ˈtɪs/tɪz/=it is,

前・後接語縮約—— 前接語縮約と後接語縮約の中間的な例。

ʃaːnˈt(ʃaːnˈt)=shall not, wɒnˈt=will not,

②非並置脱落 (non-juxtapositional elision)—— 中音消失 (syncope) と尾音消失 (apocope) の例がある。

子音の脱落 (consonant elision):

/d/の脱落: /n/+d/, C+d+(C), /n/+d/+z/#/(11: 131),

kindness/kaindnɪs/→/kainnis/→/kainɪs/, friendly/frendli/→/frenli/, finds/faɪndz/  
 →/faɪnz/, handlful/hændful/→/hænfʊl/, mends/mendz/→/menz/,

/g/の脱落: V+g/+n, dʒ/, /ŋ/+g+(C),

physiognomy/fiziɔgnəmi/→/fiziənəmi/, suggest/səgdʒest/→/sədʒest/, Englis/ɪŋɡlɪʃ/  
 →/ɪŋɡlɪʃ/, Singapore/sɪŋgəpɔ:/→/sɪŋəpɔ:/, recognizance/rikəgnɪzəns/→/rikənɪzəns/,

/h/の脱落: /#/h/+j/, /#/h/+V, /#/h/+w/+V, C+h/+V+C, V+h/+V, /h/  
 の後の母音に強勢がある場合, 通常, /h/の脱落は生じない。

what/hwɒt/→/wɒt/, herb/hɛ:b/→/ə:b/, huge/hju:dʒ/→/ju:dʒ/, humor/hju:mə/→/ju:mə/,  
 rehabilitate/ri:həbɪləteɪt/→/ri:əbɪləteɪt/, prohibition/prəuhɪbɪʃən/→/prəuhɪbɪʃən/,  
 inhalation/ɪnhəleɪʃən/→/ɪnəleɪʃən/, historic/hɪstɔ:ɪk/→/ɪstɔ:ɪk/,

/k/の脱落: C+k/+C, /ŋ/+k/+t, s, ʃ, tʃ/, V+k/+C,

thanks/θæŋks/→/θæŋs/, linked/ɪŋkt/→/ɪŋt/, punkture/pʌŋktʃə/→/pʌŋtʃə/, function  
 /fʌŋkʃən/→/fʌŋʃən/, defunct/dɪfʌŋkt/→/dɪfʌŋt/, asks/ɑ:sks/→/ɑ:ss/, asked/ɑ:skt/→  
 /ɑ:st/, sanctuary/sæŋktʃuəri/→/sæŋtʃuəri/, risked/rɪskt/→/rɪst/, sixths/sɪksθs/→/sɪsθs/,  
 expected/ɪkspektɪd/→/ɪspektɪd/, liked,

/l/の脱落: /#V+l/+C, /#/l/+V, C+l/+i/#/, /l/+l/+i/#/, /l/+l/+i/#/,

supplely/sʌpli/→/sʌpli/, although/ɔ:lðu/→/ɔ:ðu/, alternative/ɔ:ltə:nətɪv/→/ɔ:tə:nətɪv/,  
 certainly/sə:tnli/→/sə:tni/, almost/ɔ:lmoust/→/ɔ:moust/, already/ɔ:lredi/→/ɔ:redi/, old  
 /ould/→/oud/, always, coolly, also, loyalty,

/m/の脱落: V+m/+C#/(7: 78),

seems/si:mz/→/sɪz/,

/n/の脱落: V + /n/ + C,

grounded/graundid/→/graudid/,

/p/の脱落: C + /p/ + C, /m/ + /p/ + /t, s, θ, k, ʃ, tʃ/,

helps/helps/→/hels/, helpt/helpt/→/helt/, tempt/tempt/→/temt/, impromptu/impromptju:/→/impromptfu:/, presumption/prizʌmpʃən/→/prizʌmfən/,

/r/の脱落: V + /r/ + V (7: 65),

European/ju(ə)rəpi:ən/→/juəpi:ən/,

/t/の脱落: (C) + V(強勢) + /nt/ + V, /n/ + /t/ + /l/#/, C + /t/ + (C), /n/ + /t/ + /s/#/,

interview/intəvju:/→/inəvju:/, restless/restlis/→/reslis/, dental/dentl/→/denl/, inventor /inventə/→/inəvənə/, Atlanta/ətlæntə/→/ətlæne/, gigantic/dʒaigæntik/→/dʒaigænik/, plenty/plenti/→/pleni/, county/kaunti/→/kauni/, prints/prints/→/prins/,

/v/の脱落: 慣例的

what/how/where/who/whomever→what/how/where/who/whom/e'er, even→e'en, over→o'er,

/θ/の脱落: C + /θ/ + /s/,

months/mʌnθs/→/mʌns/, tenths/tenθs/→/tens/. fifths/fifθs/→/fifs/,

/ð/の脱落: /ð/ + /z/,

clothes/klouðz/→/klouz/, underclothes/ʌndəkluuðz/→/ʌndəklouz/, youths/ju:ðz/→/ju:z/,

半母音の脱落 (semivowel elision):

/j/の脱落: /r, d, n, θ/ + /j/ + V,

numerous/nju:mərəs/→/nu:mərəs/ (母音/ə/も脱落することがある), new/nju:/→/nu:/, news/nju:z/→/nu:z/, tube/tju:b/→/tu:b/, tune/tju:n/→/tu:n/, enthusiast/inθju:ziæst/→/inθu:ziæst/, stew/stju:/→/stu:/, duty/dju:ti/→/du:ti/,

cf. /j/の挿入: coupon/ku:pən/→/kju:pən/,

/w/の脱落: /k/ + /w/ + C,

quarterback/kwɔ:təbæk/→/kɔ:təbæk/,

母音の脱落 (vowel elision):

/i/の脱落: V + (C) + C + /i/ + C, C + /i/ + V, /ʃ, ʒ, tʃ, dʒ/ + /i/ + /ə/,

profitable/prɒfɪtəbl/→/prɒftəbl/, Latin/lætɪn/→/lætn/, Edinburgh/edɪnbərə/→/ednbərə/, extremely/ɪkstri:mli/→/kstri:mli/, community, similar, pupil,

/ə/の脱落: V(強勢) + (C) + C + /ə/ + /r/ + /ə/, i/, V(強勢) + (C) + C + /ə/ + C, C + /ə/ + C + V, V + /ə/ + C, /#C + /ə/ + C + V(強勢) + C, /#(C) + V(強勢) + C + V + C + V, difficult/difikəlt/→/difiklt/, family/fæməli/→/fæmli/, preferable/prefərəbl/→/prefrəbl/, easily/i:zəli/→/i:zli/, musical/mju:zɪkəl/→/mju:zɪkl/, memory/meməri/→/memri/, collapse, different,

子音+母音の脱落(consonant+vowel elision): CV (Cが繰り返される場合に例が多い), /#/bi/ + C (慣例的),

contemporary /kəntemp(ə)rəri/ → kontemp(ə)ri/, laboratory /ləb(ə)rəri/ →/ləb(ə)tri/, library/laɪbrəri/→/laɪbri/, February/februəri/→/febri/, terrorist/terərɪst/ →/terɪst/, probably/prɒbəbli/→/prɒbli/, because/bɪkɔ:z/→/pkɔ:z/→'cause/kɔ:z/(/kɔ:z/, /kɔ:z/), between/bɪtwi:n/→'tween/twi:n/, beneath/bɪni:θ/→'neath/ni:θ/,

母音と子音の脱落(assortment elision): (7: 70)

perhaps/pə'hæps/→/pæps/(cf. p'raps/præps/), extraordinary /ɪkstrədɪnəri/ →/strɒnri/, particularly/pətɪkjʊləli/→/pətɪkli/,

非並置脱落の後, 連結が生じた例。

50 percent off/pə'sent ɒf/→/pə'sen ɒf/→/pə'senɒf/(語頭母音/ɒ/と連結する), sent up /sent ʌp/→/sen ʌp/→/senʌp/(連結),

母音と子音の非並置脱落が同時に生じた例。

seventy/sevənti/→/sevni/, strengthen/streŋkən/→/strenθn/, preemptory/pə'remptəri/ →/pə'remtri/,

非並置脱落と逆行性非並置調音点同化および非並置融合が連続して生じた例。

apprenticeship/ə'prentɪsɪp/→/ə'preniʃɪp/→/ə'preniʃɪp/(融合), government/gʌvən'ment/ →/gʌvnmənt/(脱落)→/gʌvmmənt/(同化)→/gʌvmənt/(融合),

非並置脱落と逆行性非並置調音点同化が連続して生じた例。

pumpkin/pʌmpkin/→/pʌmkin/(脱落)→/pʌŋkin/(調音点同化), distinct/dɪ'stɪŋkt/ →/dɪstɪŋkt/(脱落)→/dɪstɪnt/(調音点同化), instinct/ɪn'stɪŋktɪv/→/ɪn'stɪŋktɪv/(脱落) →/ɪnstɪntɪv/(調音点同化),

非並置脱落と並置脱落が連続して生じた例。

promptbook/prɒmptbuk/→/prɒmtbuk/→/prɒmbuk/, jumped for joy/dʒʌmpt fə/ →/dʒʌmpfə/→/dʒʌmfə/,

非並置脱落と進行・逆行性非並置発声同化が同時に生じた例。

fantasy/fæntəsi/→/fænəzi/,

非並置脱落と進行・逆行性非並置発声同化および逆行性調音点同化が連続して生じた例。

Southampton/sauθhæmptən/→/sauθæmtən/→/sauðæntən/,

非並置脱落と並置脱落および逆行性並置発声同化が連続して生じた例。

supposed to/səpouzd tə/→/spouztə/→/spoustə/,

並置融合と子音+母音の脱落(子音/t/が繰り返されるため)が同時に生じた例。

Explain it to Tom/iksplein it tə tɔm/→/ikspleinitə tɔm/→/ikspleinitə tɔm/(融合)→/ikspleinitɔm/(子音+母音/tə/の脱落),

母音の融合と逆行性同化・融合および子音と母音の脱落が同時に生じた例 (7: 65)。

environment/invaiəɾənmənt/→/invɑ:mnt/,

語尾音の脱落——単独に用いられた語または文尾において尾音消失(apocope)の例がみられる(下線部)。歯茎破裂音(閉鎖音)/t, d/に比較的例が多い。

It's a started(.), I beted(.), Use your judgemented(.), It's a good pointed(.),  
Whated?! Greated! Gooded! Tonighted? Righted(.), I apologizeed(.),

#### ⑤その他の音声変化の例

①文尾にくる語の語尾音が有声子音の場合、その前の母音はやや長音化する傾向がある(10: 129-140)。

Where do you live? I'm waiting for a cab. What do you have in your hand?  
Is this your bag? That's too bad.

②語頭の/ð/が/n/に変化することがある(逆行性並置鼻音化の項参照)。

that's/ðæts/→/næts/, then/ðen/→/nen/, there/ðeə/(/ðer/)→/neə/(/ner/),

③現在分詞を作る接尾辞-ingと不定詞の一部のtoが連続し、/nə/と発音されることがある。

I am going to do/gouɪj tə/→/gounə/, I am trying to make/traiɪj tə/→/trainə/,  
owing to/ouɪj tə/→/ounə/,

cf. I'm going to/aim gouɪj tə/→/aij gounə/,

本節では、これまで、音声変化の諸相を、(1)連結、(2)同化、(3)融合、(4)脱落、(5)その他の変化、の視点から概観した。発話における分節音の変化は自然な言語リズムや音調を維持する上で必然的に生ずる音声現象であり、必ずしも特殊な例ではないことを学習者には理解させたい。

#### 結 語

本論では、英語教育、とくに、コミュニケーションメディアとしての音声英語の教授・学習という観点から、(1)英語教育におけるリスニング(聴解能力)の重要性、(2)日・英語の音節構造およびリズム構造の対照分析に基づく学習困難点の予測、(3)英語のリズム単位、強勢、音調、接続、(4)英語



の発話における分節音の変化の諸相、の4項目を中心に論じてきた。

英語の韻律特性については、これまで諸家による貴重な知見がある一方、未解明の点も少なくない。したがって、英語教育の分野で音声英語の指導・学習に欠かすことのできない実際の・応用的な音声学的知識が十分に得られているとはいえず、課題となっている事柄も多い。近年、'Aural Approach'や'Comprehension Approach'にみられるように、外国語学習初期の段階において理解力(listening comprehension)の養成が重視される傾向にあり、また、学校教育においても英語の「聞き取り能力」と「発表能力」が、それぞれ、新たに独立した分野として指導・学習の対象となり、AETプログラムの導入と相俟って、コミュニケーションメディアとしての音声英語への関心が高まっている。音声英語の効率的な教授・学習を促す上で理論的・実際の基盤となる応用音声学の一層の充実が今後求められることになろう。

### Abstract

More and more impetus has been given to the idea of teaching EFL (English as a foreign language) for communication and there has been much talk in the teaching profession in this country of how to practice to realize this idea in a classroom since the AET Program came into effect in the late 80s and 'The Course of Study' issued by the Ministry of Education made a clear statement in the early 90s that listening comprehension and oral production should be developed as goals to be achieved independent of reading and writing in formal EFL teaching/learning situations. It can be said that the aspect of the language—spoken English—has been least focused and studied in formal classroom environments in spite of its importance having been long recognized and valued by some of those interested in the foreign language teaching.

Few languages may be more remote in their traits from each other than English and Japanese. The English language has its own phonemic system and prosodic features so distinct from those of the Japanese language that they simply cannot be substituted by those which Japanese learners have as part of their native language competence. EFL Japanese learners should systematically be given large quantity of aural examples of spoken English full of information on its own sound features before they transfer their sound system into English while learning it in class, and at the same time, should be required to have sufficient drill and practice to make the knowledge ingrained within them so that it can operate as a new set of phonological system different from that of their mother tongue.

The present paper, a pilot study, is of comparative phonetics on English (the target language) and Japanese (learners' native language) to predict and present some remedies for possible learning difficulties encountered by EFL Japanese learners in the course of their learning of English, specifically its listening comprehension in class.

First we illustrate the whole context of 'speech act' with a diagram (Diagram-I)—which provides a bird's-eye view of the 'speech act'—so that we can put relevant variables

like a phonological knowledge in perspective in foreign language use. In describing the 'the speech act,' we also refer to the significance of social behavior norm on speech, which varies from culture to culture, having definite influence on the way people talk in front of others. Following these discussions, some phonetic attempts are made in this section to probe differences in syllable construct and rhythm structure between the two languages. Syllable construct is graphed, first, with its elements, and then some basic contrasts—*e. g.*, open *vs.* closed syllable, consonant cluster, dynamic displacement, juxtapositional-nonjuxtapositional sound changes in segment, and isosyllabism *vs.* isochronism—are discussed in illustration. The results suggest that some of the oral-aural problems for EFL Japanese learners are attributed to the syllable-related divergence between the two languages described in this section. Regarding what constitutes rhythm unit of the English language, several definitions of the unit are presented to be closely examined together for a better understanding of the concept. A 'silent stress,' which is posited to be an empathic part of the rhythm unit, is introduced to reconcile rhythm unit with isochronism of the language.

The important roles played by stress in the target language, whether it is word, phrase or sentence stress, tend to be overlooked by EFL Japanese learners due to their mother tongue, a tone language, having no counterpart of stress in English. The significance that English stress has in conveying intended information in speech is exemplified with the idea of English isochronism as opposed to Japanese isosyllabism. In addition, rules on stress patterns are analyzed with semantics in mind mainly at the levels of word and phrase (endocentric and exocentric); both make much contribution to setting up stress patterns at the level of sentence. This section also deals at some length with English phonics to help EFL learners have a good knowledge of relationships of spelling with stress as well as pronunciation in the language (see Notes).

Various changes and reductions in segmental sound will take place to keep stress and rhythm going in normal speech of English. Different aspects of the changes are classified under such major categories as liaison, assimilation, coalescence, and elision or disappearance with typical examples of each. The present paper stresses that EFL Japanese learners should perceive early through their practice in listening comprehension that sound simplification is necessary and even inevitable for streamlined utterances in speech made at normal speed with proper rhythm and melody.

Intonation including juncture can be called a melody of language that reflects a speaker's emotional attitudes toward a topic s/he is talking about. Intonation, in this sense, plays essential roles in carrying subtle nuance in meaning in language communication. This paper gives some of the examples of utterances in English to show what different meaning different intonations can make in utterances with the same syntactic structure. It is often said that monotonous rising-falling intonation tends to be repeating in Japanese, making the language sound flat or level, as contrasted with English intonation, which sounds more articulate. EFL Japanese learners are encouraged not only to have intensive practice in phonemic discrimination but also to give so much attention to English qualities of rhythm and melody that they will get to internalize them while

studying skills in oral-aural communication.

Back to the idea that expressive skills should be developed on the solid basis of receptive skills in EFL teaching, a mounting number of educational literature on 'Comprehension Approach' recently has reported to the effect that the sequence of fluent aural comprehension before oral production proves to be more effectual than otherwise in debilitating a negative transfer from learners' mother tongue of its phonology and syntax into a target language in learning a foreign language at the very introductory level. The present author suggests that EFL applied phonetics will provide both teachers and learners with necessary resources to help them realize the idea of teaching/learning English as a medium of communication among peoples in everyday situations.

[註]

- 1) 文頭や文尾を除いて機能語の母音は、通常、弱音化し/ə/となる。ただし、前置詞の *by*, *down*, *in*, *off*, *on*, *out*, *through*, *up* には弱音化形(reduced form)はなく、また、2音節の前置詞 *about*, *beside* も弱音化形をもたない。助動詞の *may*, *might*, *ought* も弱音化形をもたず、代名詞の *she*, *we*, *me*, *they* も弱音化形をもたない。この他、*my*, *our* は、それぞれ、/a/, /ma/, /ar/の短縮形をもつが、いずれも弱音化/ə/はしない(11: 247)。
- 2) 英語のスペリングと発音・強勢との関係(phonics)については以下のような例をあげることができる。
  - ・接頭辞を除き、*ae* の *a* は、通常、黙字——*aesthetic*/i:sə'tetik/(/esə'tetik/), *Aesop*/i:sɒp/(/i:sɒp/, /i:səp/), *cicadae*/saikəidi:/, *aerobic*/ɛə'rɒbik/(/ɛ(ə)rɒbik/), *aethereal*, *Caesar*,  
cf. *Michael*/maɪkl/, *Pre-Raphaelite*/pri:ræfiəlait/, *Israel*/izriəl/(/izreɪəl/), *Israeli*/izreɪli/,
  - ・語尾または子音字の前の *mb* の *b* は黙字——*climb*/klaɪm/, *comb*, *thumb*, *bomb*, (en)*tomb*, *succumb*,  
*plumb*, *numb*, *lambda*/læmdə/, *lambkin*/læmkɪn/, *ambace*/eɪmzeɪs/(/æmzeɪs/),
  - ・語尾の *t* の前の *b* または母音字と *t* に挟まれた *b* は黙字——(mis)*doubt*/(mis)daut/, *debt*, *indebted*,  
*subtle*,
  - ・語頭または語中の *eu* の *e* は、通常、黙字——*euphoria*/ju:fɔ:riə/, *Europe*/ju(ə)rɒp/, *maieutic*  
/meɪju:tɪk/, *maneuver*/mænu:və/(/mænu:vər/), *pneumatic*/n(j)u:mætɪk/,  
cf. *Reuters*/rɔɪtəz/(/rɔɪtərz/), *berceuse*/bɛəsə:z/(/bɛrsə:z/),
  - ・子音字(*r*, *y*, *w*, *h* を除く)に続く語尾の *-en* の *e* は、通常、黙字——*garden*/gɑ:dn/(/gɑ:dn/), *lighten*  
/laɪtn/, *maiden*/maɪdn/, *sudden*, *harden*, *brighten*, *deepen*/di:p(ə)n/,  
cf. *kitchen*/kɪtʃɪn/,
  - ・*n* の前の語頭の *g* は黙字——*gnat*/næt/, *gnaw*, *gnu*, *gnash*, *gnarled*,
  - ・*a*, *i* と *n*, *m*, *o*, *u* と *n* に挟まれた *g* は黙字、*g* の前の短母音に強勢があるか *g* の後の母音字に強勢がある場合は例外——*sign*/saɪn/, *campaign*(er), *poignant*, *sovereign*, *arraign*, *foreign*, *feign*, *indign*,  
*diaphragm*/daɪəfræm/, *Montagnard*/mɒntənʒɑ:(d)/(/mantənʒɑ:(d)/), *Cro-Magnon*/kroumænʒɔ:ŋ/  
(/kroumægnən/), *bagnio*, *cologne*/kəloun/, *impugn*, *oppugn*,  
cf. *resignation*/rezɪgneɪʃən/, *signature*, *benignant*, *indignation*, *paradigmatic*,
  - ・語頭の *gh* の *h* は黙字——*ghost*/gəʊst/, *ghetto*/getəʊ/, *ghastly*,
  - ・語頭の *kh* の *h* は黙字——*khmer*/kmeə/(/kmer/, /kəmer/), *khan*, *khaki*,
  - ・語頭の *dh* の *h* は黙字——*dharma*/dɑ:mə, də:mə/(/dɑ:mə, də:rmə/), *dhow*/daʊ/,
  - ・*r* の後の *h* は黙字——*rhetoric*/retərɪk/, *rhapsody*, *rhyme*, *rhythm*, *rhinoceros*, *pyrrhic*, *rheumatism*  
/rumətɪz/(/ru:mətɪz/),

- ・語尾(ch, gh, ph, sh, thを除く)のhは黙字—— Vietminh/vietmin/(/vi:etmin/, /vjetmin/), Utah /ju:tɑ:/, nullah/nʌlə/, Pharaoh, ah/ɑ:/, oh/ou/, shah, sheikh, hallelujah, cf. Pittsburgh/pitsbæ:g/(/pitsbærg/),
- ・nの前の語頭のkは黙字—— knight/nait/, know, knock, knit, knife, knee, knuckle, cf. knish/kniʃ/, cami-knickers/kæminikəz/(/kæminikərz/),
- ・nの前の語頭のmは黙字—— mnemonic/nɪ:mɒniks/(/ni:məniks/), Mnemosyne/nɪ:mɒzəni:(/ni:məsəni:/),
- ・mの後の語尾のnは黙字—— hymn/him/, autumn, damn, condemn, solemn, column,
- ・子音字n, s, tの前の語頭のpは黙字—— pneumatic/nju:mætik/(/n(j)u:mætik/), pneumonia, psalm, psychology, pseudoclassicism, ptarmigan/tɑ:migən/(/tɑrmigən/), pterosaur, cf. pshaw/pʃ:/(/ʃɔ:/), psst/pst/,
- ・子音字のsとl, m, c, nに挟まれた子音字は黙字—— muscle/mʌsl/, castle/kɑ:sl/(/kæsl/), bustle /bʌsl/, whistle/(h)wisl/, wrestle/resl/, Christmas, christcross, mustnt, cf. frostbite/frɒs(t)bait/(/frɔ:s(t)bait/), mortgage/mɔ:gidʒ/(/mɔrgidʒ/),
- ・子音字(f, s)と語尾のenに挟まれたtは黙字—— listen/lisn/, soften/sɒfn/(/sɔ:fn/), often, hasten, christen, chasten, glisten, fasten, moisten,
- ・子音字(h, yを除く)の前の語頭のwは黙字—— write/rait/, wrong/rɒŋ/(/rɔ:ŋ/), wrist/rist/, wrap /ræp/, wry/rai/, cf. whoop/hu:p/(/h)wʊ:p/, bewray/birei/,
- ・調音点が同じ子音の連続で、1分節が発音されず黙字になる例(上記例を除く)—— climber/klaimə/(/klaimər/), buncombe/bʌŋkəm/, subpoena/sʌpi:nə/, cupboard/kʌbəd/(/kʌbɔrd/), comptroller /kəntroulə/(/kəntroulər/), landscape/lænskeip/, handkerchief/hæŋkətʃif/, attempt/əttem(p)t/, cf. bellium/deliəm/, bankruptcy/bæŋkrʌp(t)si/,
- ・語尾の-ateの発音は、通常、名詞(n)・形容詞(a)の場合、/it/, それ以外では/eit/—— /it/(名詞・形容詞)—— graduate/grædʒuit/(n., a.), adequate/ædikwit/(a.), foliate(a.), cf. candidate/kændidit/(/kændideit/)(n.), /eit/(動詞・単音節語・強勢・学術用語)—— graduate/grædʒueit/(/grædʒueit/)(v.), obliterate /əblitəreit/(v.), associate/əsouʃieit/(v.), foliate/foulieit/(v.), cf. concentrate/kɒnsəntreit/(/kənsəntreit/)(v., a., n.),
- ・子音字の後または語頭のaught, oughtの発音は/ɔ:t/(ghは黙字), ghが黙字にならない場合, aughtの発音は/a:ft/(/æft/)  
onslaught/ɒnslɔ:t/(/ənslo:t/), haughty/hɔ:ti/, taught, caught, naught, naughty, cf. draught/drɔ:ft/(/dræft/), laughter/la:ftə/(/læftər/), fought/fɔ:t/, ought, thought, bought, sought, brought, besought, wrought, nought, cf. drought/draut/,
- ・語尾または子音字(r, yを除く)の前のawの発音は/ɔ:/—— awkward/ɔ:kwəd/(/ɔ:kwɔrd/), paw, straw, raw, law/lɔ:/, saw, caw/kɔ:/, dawn, pawn, spawn/spɔ:n/, trawl/trɔ:l/, cf. awe/ɔ:/,
- ・母音字e, iの前の語頭のcの発音は/s/, それ以外は/k/—— /s/—— century/sentʃuri/(/sentʃəri/), ceiling, cite/sait/, civil, city, circus, /k/—— cook/kuk/, call/kɔ:l/, card, cat, cash, cock, coast,
- ・語尾がcで終わる動詞の三・単・現, 現在分詞, 動名詞および過去, 過去分詞の屈折には通常, kを加える—— picnics – picnicking – picnicked, panics – panicking – panicked,
- ・母音字の後の語尾の-creの発音は/kə/(/kər/)—— acre/eikə/(/eikər/), lucre/lu:kə/(/lu:kər/), massacre, mediocre, cf. grocer/grouəsə/(/grouəsər/), officer, soccer/səkə/(/səkər/),

- ・動詞の過去、過去分詞の屈折-(e)dの発音は、語尾音が/t/, /d/の場合、/ɪd/, 語尾音が無声音(/t/を除く)の場合、無声音化し/t/, 語尾音が有声音(/d/を除く)の場合は有声音化し/d/になる——wanted /wɒntɪd/, handed/hændɪd/, talked/tɔːkt/, washed/wɒʃt/, closed/klouzd/, housed/hauzd/, aimed/eɪmd/,  
cf. learned/lɜː(r)nɪd/(a), cursed/kɜː(r)sɪd/(a), ragged/ræɡɪd/(a),
- ・語尾が1母音字(短母音)+1子音字(1子音)または1母音字+rで終わる単音節(規則)動詞, また, 語尾が1母音字(母音に強勢が置かれる)+1子音字で終わる複音節(規則)動詞の場合, 現在分詞, 動名詞, 過去, 過去分詞の屈折は, 通常, 語尾の子音字を重ねる——plan-planning-planned, prefer-preferring-preferred, compel-compelling-compelled,  
cf. travel-travelling-travelled (BE),
- ・子音字(r, yを除く)の後の語尾の-eonの発音は/ʃ, ʒ, tʃ, dʒ/の後では/ən/か/in/——  
/ən/——luncheon/lʌntʃən/, truncheon, burgeon/bɜːdʒən/(/bɜːrdʒən/), sturgeon,  
/in/——pigeon/pɪdʒɪn/(/pɪdʒən/),
- ・語尾の-eousの発音は/ʃ, ʒ, tʃ, dʒ/の後では/əs/——courageous/kəreɪdʒəs/, cactaceous/kækteɪfəs/, self-righteous/self-raɪtʃəs/,
- ・名詞の複数語尾('sを含む)と三・単・現の動詞の語尾の-(e)sおよび名詞の所有格を表す'sと縮約形の一部としての's('s=is, has)の発音は/s, z, ʃ, ʒ, tʃ, dʒ/の後では/ɪz/(/əz/), それ以外の無声音と有声音の後では, それぞれ, /s/と/z/になる——  
/ɪz/(/əz/——teaches/tiːtʃɪz/, dishes/dɪʃɪz/, bridges/brɪdʒɪz/, Jones's/dʒoʊnzɪz/,  
/s/——thinks/θɪŋks/, engulfs/ɪŋɡʌfs/, months/mʌnəs/, what's/(h)wɒts/(/h)wɒts/),  
/z/——goes/ɡoʊz/, tigers/taɪɡəz/(/taɪɡərz/), seeds/siːdz/, he's/hiːz, (h)ɪz/,  
cf. does/dəz/(/dəz/), says/seɪz/,
- ・語尾の-esceの発音は/es/(eに強勢)——opalesce/ɒpəles/, effloresce, phosphoresce, recrudescence, coalesce, acquiesce, incandesce, intumescence, deliquesce, convalesce,
- ・語尾-ff, -zの前の母音字の発音は短母音——puff/pʌf/, stuff, cliff, buzz/bʌz/, quiz,
- ・母音字の後の語尾の-gueの発音は/g/(ueは黙字)——  
/g/(ueは黙字)——dialogue/daiələʒ/(/daiələ:g/, /daiələʒ/), plague, fatigue,  
cf. tongue/tʌŋ/, argue/ɑːɡjuː/, dengue/deggi/, Huguenot/hjuːɡənɒt/(/hjuːɡənɒt/), singing/sɪŋɪŋ/,
- ・母音字の後の語尾の-greの発音は/gə/(/gər/)——meagre/miːɡə/(/miːgər/), ogre/ɒɡə/(/ɒgər/),  
cf. manager/mænɪdʒə/(/mænɪdʒər/), danger, finger/fɪŋɡə/(/fɪŋɡər/), anger,
- ・母音字の前の語頭のiの発音は/ai/——iambic/aɪæmbɪk/, iota, ion, Iowa,
- ・語尾の-ianの発音は/ʃ, ʒ, tʃ, dʒ/の後では, 通常, /ən/——musician/mjuːzɪfən/, magician, beautician, Confucian, Belgian,
- ・子音字の後のighの発音は/ai/(ghは黙字)——sigh/saɪ/, high, nigh/nai/, light/lait/, night, sight, lighten, tight, plight, right, slight, might, bright,
- ・強勢が置かれない語尾の-ionの発音は/ʃ, ʒ, tʃ, dʒ/の後では/ən/(iは黙字)——station/steɪfən/, fashion, pension, suspicion, conclusion/kənkluzən/, region/riːdʒən/,  
cf. marchioness/mɑːʃənɪs/(/mɑːʃənɪs/),
- ・語尾の-iousの発音は/ʃ, ʒ, tʃ, dʒ/の後では/əs/——factitious/fæktɪfəs/, conscious, tenacious, judicious, anxious, superstitious, religious/rɪlɪdʒəs/, prodigious,
- ・子音字(r, yを除く)に挟まれた-ir-の発音は/əː/(/əːr/)——  
/əː/(/əːr/)——girl/ɡɜːl/(/ɡɜːrl/), third, birth, shirt, thirst, firm, (out)skirt, first, irk, bird, whirl, firch, gird, (en)girdle, shirk, twirl, circulate,
- ・g(語尾の-ng, -nge, -ngueを除く), k, qの前のnの発音は, 通常, /ŋ/——  
single/sɪŋɡl/, finger/fɪŋɡə/(/fɪŋɡər/), angle, anger, longer, English, England,  
cf. singer/sɪŋə/(/sɪŋər/), ingage/ɪŋgeɪdʒ/,

- think/θɪŋk/, sink/sɪŋk/, thank, bank, ankle, uncle, conquer/kɒŋkə/(/kɒŋkər/),  
cf. oink/ɔɪŋk/,
- ・現在分詞の屈折(-ing)を含め、語尾の-ng, -ngueの発音は、通常、/ŋ/—going/gouɪŋ/, passing, sing, long, Hongkong, fang, thong, young, tongue/taŋ/, meringue, gangue,  
cf. dengue/deggi/, Arlington/ɑ:lɪŋtən/(/ɑ:lɪŋtən/), finger/ɪŋgə/(/ɪŋgər/),
  - ・子音字(r, yを除く)の後の語尾の-oeの発音は/u:/か/ou/—  
/u:/—canoe/kənu:/, shoe/ʃu:/,  
/ou/—hoe/hou/, Monroe/mənrou/, woe/wou/, aloe/ælou/, toe, foe, roe, Joe,
  - ・子音字(r, yを除く)の後の語尾(複音節語)の-oiseの発音は/əs/—porpoise/pɔ:pəs/(/pɔ:pəs/),  
tortoise/tɔ:təs/(/tɔ:təs/),  
cf. chinoiserie/ʃi:nwɑ:z(ə)ri:/,
  - ・phの発音は/f/—photo/foutou/, phrase, siphon, phone, philosophy, elephant,  
cf. shepherd/ʃepəd/(/ʃepər/),
  - ・語尾のqの発音は/k/—Iraq/ira:k/,
  - ・語尾の-sceの発音は/s/, 強勢は直前の母音に置かれる—reminisce/remənɪs/, evanesce, dehísce,
  - ・母音字の後の語尾の-sionの発音は/ʒən/, 子音字(rを除く)の後では/ʃən/—  
/ʒən/—precision/prɪzɪʒən/, collision/kəlɪʒən/, derision/dɪrɪʒən/, conclusion,  
cf. rescission/rɪsɪʒən/,  
/ʃən/—compulsion/kəmˈpʌlʃən/, succession/səkseʃən/, comprehension/kəmˈprɪhenʃən/,  
cf. aversion/əvə:ʃən/(/əvə:rʃən/, /əvə:rʒən/), submersion/səbmə:ʃən/(/səbmə:rʒən/),
  - ・強勢が置かれない語尾の-sureの発音は母音字の後では/ʒə/(/ʒər/), 子音字の後では/ʃə/(/ʃər/)—  
/ʒə/(/ʒər/)—leisure/leʒə/(/li:ʒər/, /leʒər/), measure, closure,  
/ʃə/(/ʃər/)—pressure/ˈpreʃə/(/ˈpreʃər/), censure,
  - ・強勢が置かれない語尾の-tainの発音は、通常、/tɪ/(aiは黙字)—certain/sə:tɪ/(sə:rtɪ/), mountain,  
curtain, Britain, fountain/faunt(i)n/, captain/kæpt(i)n/,
  - ・語頭のxの発音は/z/—xenophobia/zenəˈfəubiə/, xenogenesis/zenədʒenəˈsɪs/,  
cf. Xmas/krɪsməs/, X-ray/eksreɪ/,
  - ・語尾のxの発音は/ks/—climax/klaimæks/, complex, box, tax, perplex,
  - ・語頭のxy-, zy-の発音は/zai/—xylograph/zaiˈlɒgrɑ:f/(/zaiˈlɒgræf/), xylophone/zaiˈləʊfən/,  
zygosis/zaɪˈɡəʊsɪs/, zymology/zaiˈmɒlədʒi/(/zaiˈmɒlədʒi/),
  - ・語尾のyの発音は、/t, d, s, z, tʃ, dʒ/の後では、通常、/i/—beauty/bju:ti/, study/stʌdi/,  
bankruptcy/bæŋkrʌp(t)si/(/bæŋkrəp(t)si/), easy/i:zi/, stretchy/stretʃi/, strategy/strætɪdʒi/,  
appology/əˈpɒlədʒi/(/əˈpələdʒi/),
  - ・子音字の前の-yr-の発音は/ə:/(/ər/)—myrtle/mɜ:tl/(/mɜ:rtl/), thyrus/θə:səs/(/θə:rsəs/),  
myrmidon,
  - ・子音字(r, w, h, yを除く)の後の語尾の-yrの発音は/ə/(/ər/)か/iə/(/ər/)—  
/ə/(/ər/)—martyr/mɑ:tə/(/mɑ:tər/), satyr/sætə/(/seɪtər, sætər/),  
/iə/(/ər/)—Valkyr/vælkɪə/(/vælkər/),
  - ・語尾-zeの前の母音字の発音は長母音か二重母音—apprize/əpraɪz/, specialize, gauze,
  - ・接尾辞(-er, -ful, -hood, -ist, -ing, -less, -ness, -or, -ship, 等)には、通常、強勢は置かれないが、-aire, -atta/enne/etta/ette/etto/otte, -ee, -eer/ier, -ese/ise, -esque/oque, -eur/euseには、通常、強勢が置かれる。  
-aire—billionaire, doctrinaire, commissionaire, questionnaire, debonair, millionaire, legionnaire, concessionaire,  
-atta/enne/etta/ette/etto/otte—brunette, marionette, kitchenette, coquette, stiletto, Henrietta, operetta, regatta, tragedienne, garrotte,  
cf. étiquette/etiquette, palette,

- ee—employee, examinee, nominee, absentee, interviewee, conferee, allottee, addressee, quizzee, obligee, payee, refugee, bargee, appointee, chimpanzee,  
cf. jubilee, mallee, kildee, púttee/puttée, maharānee, tróchee, cóngee, mánatee,
- eer/ier — carabineer, charioteer, engineer, pamphleteer, commandeer, electioneer, mountaineer, bandoleer/bandolier, cavalier, chevalier, grenadier, bombardier, chiffonier,  
cf. kílldeer, cómpeer/compéer, cóurtier, fárier, bárier, fáncier,
- ese/ise(人・言語・知識を表す)—journalese, governmentese, bureaucratese, telegraphese, legalese, Johnsonese, Carlylese, Tyrolese, Japanese, Chinese,  
cf. mánganese/manganése, telegraphése/télegraphese, trapéze,
- esque/oque — statuesque, Romanesque, picturesque, grotesque, picaresque, arabesque, sculpturesque, Dantesque, Moresque, Raphaellesque, Junoesque, baroque,
- eur/euse(人を表す)—entrepreneur, connoisseur, raconteur, chauffeur, coiffeur, voyageur, seigneur, saboteur, masseuse,  
cf. grándeur, liqueur/likjúə/(/liké:r/),
- ・語尾のスペリングが—aphy/ophy, —apy/athy/opsy, —cracy/crasy, —efy/ify, —ent/ence/ency (—ant/ance), —eous/ious/uous, —eter/etry, —ety/igy/ity, —ia/ic/iac, —ial, —ian/ion, —iate, —ical, —icism, —ics, —ience/iency/ient, —itude/itute, —(i)um/(i)us, —logy, —lysis, —nomy/tomy, —onym, —sis(lysisを除く), —tes/tis/tusで終わる単語は、通常、その前の母音に強勢が置かれる。
- aphy/ophy — epigraphy, autography, biography, telegraphy, philosophy, theosophy,
- apy/athy/opsy — therapy, sympathy, antipathy, apathy, empathy, autopsy,
- cracy/crasy — democracy, aristocracy, meritocracy, bureaucracy, idiosyncrasy,
- efy/ify — stupefy, liquefy, personify, identify, beautify, specify, modify,
- ent/ence/ency (—ant/ance) — acquiescence/—cent, complacent/—cence/—cency, liquescent, florescence/—escent, complaisant/—sance, incandescent/—cence,
- eous/ious/uous — sericeous, gorgeous, outrageous, obnoxious, oblivious, judicious, malicious, serious, ambitious, capricious, conspicuous, ambiguous, ingenuous,
- eter/etry — voltameter, tachometer, thermometer, geometry, hygrometry,  
cf. céntimeter,
- ety/igy/ity — society, notoriety, prodigy, obscenity, humidity, continuity, purity, frugality, obscurity,
- ia/ic/iac — hemophilia, prosopopoeia, paraphernalia, encyclop(a)edia, begonia, balletic, monopolistic, kaleidoscopic, Anglomanic,  
cf. rhétoric,
- ial — judicial, commercial, provincial, artificial, tangential, credential,
- ian/ion — Indonesian, guardian, physician, Boswellian, magician, Iroquoian, impression, concision, excision, condescension, concussion, Pygmalion, pavilion,
- iate — appreciate, initiate, associate, appropriate, satiate, repatriate,
- ical — economical, historical, rhetorical, critical, political, ecclesiastical,
- icism — criticism, ecclesiasticism, skepticism, classicism, mysticism,
- ics — technics, didactics, onomastics, statistics, psychometrics, physics,  
cf. pólitics,
- ience/iency/ient — prevenience/—ient, (im)patience, (in)convenience/—ient, recipient, sentient, incipience/—ency, expédience,  
cf. scéience,
- itude/itute — altitude, incertitude, attitude, platitude, vicissitude, aptitude, decrepitude, pulchritude, institute, constitute, destitute, prostitute,

- (i)um/(i)us — medium, symposium, principium, sodium, consortium, allodium, sphagnum, serum, abomasum, amphioxus, arum, Aquarius, aquarium, apparatus,  
cf. (antepenult) substratum/substrátum, spéculum, módicum, ántiserum, ádytum,
- logy — Japanology, ethnology, ethology, theology, philology, phonology, eulogy,
- lysis — analysis, paralysis,  
cf. lysis/láisis/,
- onym — synonym, antonym, pseudonym,
- sis (lysis を除く) — apotheosis, synarthrosis, oasis, symbiosis, syllepsis, apsis,  
cf. (antepenult) symphysis/símfæsis/, diéresis, antíphrasis,
- tes/tis/tus — sorites, diabetes, arthritis, appendicitis, apparatus,  
cf. ímpetus,
- nomy/tomy — autonomy, heteronomy, anatomy, hysterectomy, lobotomy, craniotomy,
- ・語尾のスペリングが -cide (結合辞), -graph (結合辞), -sphere で終わる語 (名詞) には, 通常, 強勢は語尾から 3 番目の音節 (antepenult) に置かれる。  
-cide — herbicide, genocide, filicide, insecticide, suicide, parricide, homecide,  
cf. coincide, décide,
- graph — telegraph, oscillograph, paragraph, phonograph, photograph, autograph,  
cf. téléphótophograph, chóreograph,
- sphere — hemisphere, atmosphere, stratosphere, troposphere,  
cf. ensphère,
- ・語尾のスペリングが -ade, -and/end/ond, -cur, -ect, -ede/eed, -eem/een/eet/ene, -eive, -esce, -igue/ique, -ire, -oo, -oon, -ress, -serve, -ude (-itude を除く) で終わる語には, 通常, 強勢は語尾の音節 (ultima) に置かれる。  
-ade — esplanade, parade, pasquinade, dissuade, serenade, palisade, cannonade,  
cf. mótorcade, década, bárricade/barricáde, áccolade/accoláde, dówngrade,
- and/end/ond — understand, comprehend, apprehend, pretend, intend, attend, contend, extend, offend, defend, depend, outstand, suspend, respond, correspond,  
cf. néwsstand, dívidend,
- cur — occur, concur, incur, recur,
- ect — detect, erect, protect, expect, correct, direct, introspect, collect,  
cf. rétrospet, áspect,
- ede/eed — concede, secede, precede, accede, intercede, proceed, succeed, indeed,
- eem/een/eet/ene — esteem, canteen, offscreen, discreet, intervene, serene,  
cf. párakeet, évergreen, hygiene/háidzi:n/,
- eive — receive, deceive, conceive, perceive,
- esce — opalesce, effloresce, coalesce, acquiesce, incandesce, intumesce,
- igue/ique — fatigue, intrigue, bazique, unique, technique, antique, physique,  
cf. appliqué/æpli:kei/(/æpləkei/),
- ire — conspire, expire, attire, inspire, respire, perspire, admire, desire,  
cf. émpire (n.), úmpire (n.), sáture (n.), sápphire (n.),
- oo — tatoo, bamboo, kangaroo, taboo, shampoo, wanderoo, Waterlóc/Wáterloo,  
cf. cúckoo,
- oon — cartoon, baloon, baboon, harpoon, lagoon, picaroon, raccoon, pantaloon,  
cf. táblespoon, dessértspoon, téaspoon, hóneymoon,
- ress — impress, oppress, express, depress, suppress, compress,  
cf. áctress (女性名詞を表す),
- serve — conserve, preserve, reserve, observe,



—ude— obtrude, elude, collude, seclude, conclude, include, protrude, exclude,  
cf. prélude, attitude,

・接頭辞(dis-, il-, im-, in-, ir-, mis-, trans-, un-, 等)には、通常、強勢が置かれ  
ないが、any-, every-, no-, some-には強勢が置かれる。

ány/évery/nó/sómewhere, évery/sómeday, ány/évery/sómeone, ány/évery/nó/sóme-  
thing, ány/évery/nó/sómebody, ány/évery/sómetime, sómewhat, ány/sóme/nóhow, sómeways, ány/nóway,  
ányplace, ány/nówise,

### References

1. Adams, C., *English Speech Rhythm and Foreign Learner*, Mouton, 1979.
2. Allen, G. D., "Location of Rhythmic Stress Beats in English: An Experimental Study I," *Language and Speech*, Vol. 15, pp. 72-100, 1972.
3. \_\_\_\_\_, "Location of Rhythmic Stress Beats in English: An Experimental Study II," *op. cit.*, pp. 179-195.
4. Bolinger, D. L., "Accent is Predictable (If You're a Mind-Reader)," *Language*, Vol. 48, No. 3, pp. 633-644, 1972.
5. \_\_\_\_\_, "Contrastive Accent and Contrastive Stress," *Language*, Vol. 37, pp. 83-96, 1961.
6. Bowen, J. D., *Patterns of English Pronunciation*, Newbury House, 1975.
7. Brown, G., *Listening to Spoken English*, Longman, 1978.
8. Gimson, A. C., *An Introduction to the Pronunciation of English*, Edward Arnold, 1980.
9. Jones, D., *An Outline of English Phonetics*, Cambridge Univ. Press, 1960.
10. Klatt, D. H., "Vowel Lengthening is Syntactically Determined in a Connected Discourse," *Journal of Phonetics*, Vol. 3, pp. 129-140, 1975.
11. Kreidler, C. W., *The Pronunciation of English A Course Book in Phonology*, Basil Blackwell, 1990.
12. Lieberman, P., "Intonation and the Syntactic Processing of Speech," in *Models for the Perception of Speech and Visual Form*, pp. 314-319, Wathen-Dunn, W. (ed.) Cambridge, Mass.: The M. I. T. Press, 1967.
13. O'Connor J. D., *Better English Pronunciation*, 成美堂, 1982.
14. Prator, C. H. Jr. and B. W. Robinett, *Manual of American English Pronunciation*, CBS, 1985.
15. Scott, C. T., *Preliminaries to English Teaching*, ELEC, 1969.
16. Taylor, D. S., "Non-Native Speakers and the Rhythm of English," *IRAL*, Vol. 19, No. 3, pp. 219-226, August 1981.
17. 笠原 五郎, 『英語音声学』, 開拓社, 1965。
18. 鳥居 次好・兼子 尚道, 『英語の発音』, 大修館, 1979。
19. 枅矢 好弘, 『英語音声学』, こびあん書房, 1976。